1804 ⑦

Wetmaster

施工要領書
取扱説明書

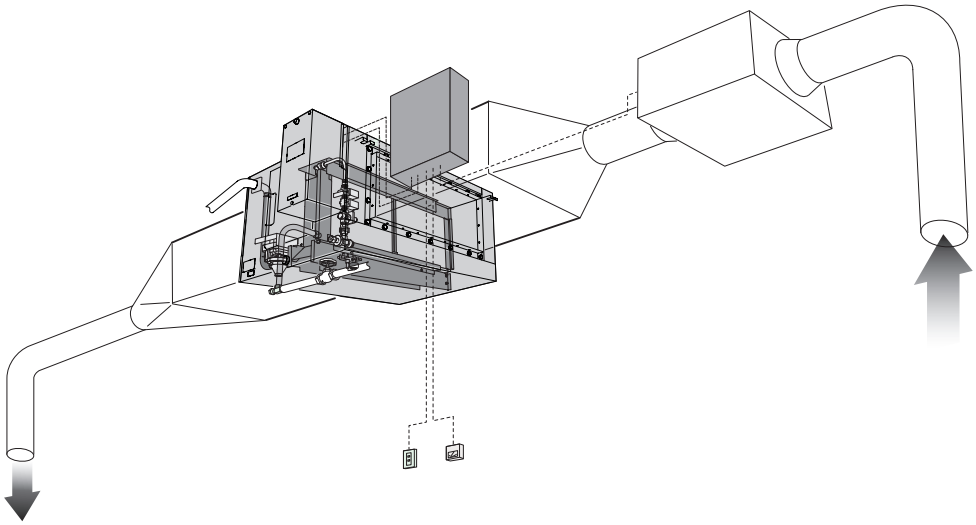
天井隠蔽型 滴下浸透気化式加湿器 VSCタイプ / VSBタイプ オプション

── 室 内 循 環 加 湿 用 ──

アフターラン制御ボックス

WM-AFB-VS

（WM-VSC タイプ /WM-VSB タイプ用）



このたびはウエットマスター滴下浸透気化式加湿器をご採用いただき、まことにありがとうございます。
本書は、VSC タイプ /VSB タイプ用アフターラン制御ボックスと標準リモコンスイッチまたはヒューミ付リモコンのどちらかの組み合わせで使用する内容を記載しています。

施工者の方へ

●加湿器の機能を十分に発揮させ、安全にご使用いただくためには、適切な取付工事が必要です。施工にあたっては必ず本書をお読みいただき、本書の内容に従って施工してください。
●本書を含めて製品添付の説明書類は、必ずお客様にお渡しして、保管いただくように依頼してください。

加湿器をご使用になるお客様へ

●ご使用の前には、必ず本書をよくお読みください。また本書は、製品添付の他の説明書類とともにお客様にて必ず保管してください。

ウエットマスター株式会社

目　次

■安全上のご注意 ―― P.1

1 一般 ―― P.2

1-1 概要 …… P.2
1-2 加湿原理について …… P.2
1-3 使用場所の制限について …… P.2

2 施工 ―― P.3 ～ 9

2-1 施工前の確認事項 …… P.3
2-1-1 VSC タイプの場合 …… P.3
2-1-2 VSB タイプの場合 …… P.5
2-2 取付 …… P.7
2-2-1 アフターラン制御ボックス本体の取付 …… P.7
2-2-2 リモコンスイッチの取付と配線要領 …… P.7
2-3 電気配線 …… P.10
2-3-1 共通事項 …… P.10
2-3-2 標準リモコンスイッチを使用する場合 …… P.11
【電気回路図・結線要領図】
VSC 用アフターラン制御ボックス・標準リモコン …… P.12 ～ 13
VSC 用アフターラン制御ボックス・ヒューミ付リモコン …… P.14 ～ 15
VSB 用アフターラン制御ボックス・標準リモコン …… P.16 ～ 17
VSB 用アフターラン制御ボックス・ヒューミ付リモコン …… P.18 ～ 19

3 各種設定 ―― P.20 ～ 32

3-1 アドレス設定（リモコンスイッチ初期設定操作）、接続台数確認 …… P.20
3-1-1 アドレス設定方法 …… P.20
3-1-2 加湿器本体接続台数の確認方法 …… P.20
3-2 外部機器と連動運転を行う場合の設定 …… P.21
3-3 運転信号出力および警報信号出力（外部信号出力）を使用する場合 …… P.21
3-4 外部指令信号入力による遠方発停（外部指令制御）を使用する場合のディップスイッチ設定 …… P.22
3-5 ヒューミ付リモコンによる各種設定 …… P.24
3-5-1 各モードについて …… P.24
3-5-2 設定モード …… P.25
a 使用するヒューミディスタットの選択 …… P.25
b 外部機器と連動運転を行うための設定 …… P.26
c 湿度検知の感度変更 …… P.27
d ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合の設定湿度の変更 …… P.28
3-5-3 設定確認モード …… P.30
3-5-4 設定初期化モード …… P.32

4 試運転 ―― P.33 ～ 35

4-1 客先ご用意のヒューミディスタットで湿度検知する場合、またはヒューミディスタットを使用しない場合 P.33
4-2 ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合 …… P.34

5 運転動作 ―― P.36 ～ 39

5-1 リモコンスイッチの各種名称と表示 …… P.36
5-2 基本的な運転動作 …… P.37
5-3 リモコンスイッチ、外部指令信号入力の後押し優先機能 …… P.37
5-4 運転動作と外部信号出力（警報信号） …… P.38
5-5 警報発生時の運転停止動作およびリモコンスイッチの表示について …… P.39

6 運転管理 ―― P.40

6-1 施工後はじめての運転に際して …… P.40
6-2 日常の運転管理 …… P.40
6-3 長期休止の場合 …… P.40
6-3-1 長期休止にあたって …… P.40
6-3-2 長期休止後の運転再開にあたって …… P.40

7 故障の原因と処置 ―― P.41 ～ 42

7-1 故障と思われる前に …… P.41
7-2 故障のチェックと処置 …… P.41
7-3 故障時の作業が終ったら …… P.41
7-4 保証期間 …… P.41
7-5 故障のチェックと処置 / 一覧表 …… P.42

8 仕様 ―― P.43 ～ 45

8-1 VSC 用アフターラン制御ボックス …… P.43
8-2 VSB 用アフターラン制御ボックス …… P.44
8-3 ヒューミ付リモコン …… P.45

安全上のご注意

取付および取扱は、本書をよくお読みのうえ、本書の内容に従って確実に行ってください。
ここに示した注意事項は「⚠ 警告」・「⚠ 注意」に区分していますが、誤った取付や取扱をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを、特に「⚠ 警告」の欄にまとめて記載しています。また「⚠ 注意」の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
取付工事完了後は、試運転を行って異常がないことを確認してください。また、本書を含めて製品添付の説明書類は、必ずお客様にお渡しして、保管いただくように依頼してください。

⚠ 警告

●本製品は、専門業者の管理のもとにご使用ください。

●取付は、専門業者に依頼してください。取付工事に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。

●取付工事は製品添付の説明書類に従って確実に行ってください。取付工事に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。

●取付は、重さに十分耐える所に確実に行ってください。強度不足や取付工事に不備があると、落下や転倒等による事故の原因になります。

●製品の大きさ、重さに注意してください。取付には製品を支持する揚重機等を使用し、作業者の危険を防止するための措置を講じてください。

●高さが２メートル以上の箇所で作業を行うときは、適正な足場を確保し安全帯を使用する等、墜落による作業者の危険を防止するための措置を講じてください。

●作業時は、けが防止のため保護手袋を着用してください。

●電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規定」および製品添付の説明書類に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。電気回路の容量不足や施工不備があると、感電、火災の原因になります。

●電気配線は所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定してください。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災の原因になります。

●工事の部材は付属品および指定の部材をご使用ください。寸法や材質等の適合しない部材を使用すると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。

●水道法、消防法等に規制される部材の取扱については、専門業者に依頼してください。

●改造は絶対にしないでください。部品交換を含め、修理は当社または専門業者にご相談ください。修理に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。

●保守点検作業は、当社または専門業者にご相談いただくか、設備機器に関する知識および作業経験のある方が行ってください。保守点検作業に不備があると、水もれや感電、火災等の原因になります。

●保守点検作業を行うときは、必ず運転を停止して元電源を切ってください。

⚠ 注意

●本製品は、病院空調等、特に清浄度を必要とする空調設備には使用できないことがあります。このような場合は当社までご相談ください。

●給水の水質は、必ず水道法に定められた水道法水質基準に適合した飲料水をご使用ください（上水道の使用を推奨します）。水質が不適当な場合は、室内空気の汚れの原因になることがあります。

●配管工事は、製品添付の説明書類に従って確実に行い、結露が生じないよう保温してください。配管工事に不備があると、水もれによる事故の原因になります。

●アース接続（D 種接地工事）を行ってください。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になることがあります。

●加湿器元電源の漏電ブレーカを取り付けてください。漏電ブレーカが取り付けられていないと、感電の原因になることがあります。

●正しい容量のヒューズ以外は使用しないでください。不適当な容量のヒューズや針金・銅線等を使用すると、故障や火災の原因になることがあります。

●本製品の下に濡れて困るものを置かないでください。

●メンテナンスのために、加湿器直下には移動できないものを置かないでください。

1 一般

1-1 概要

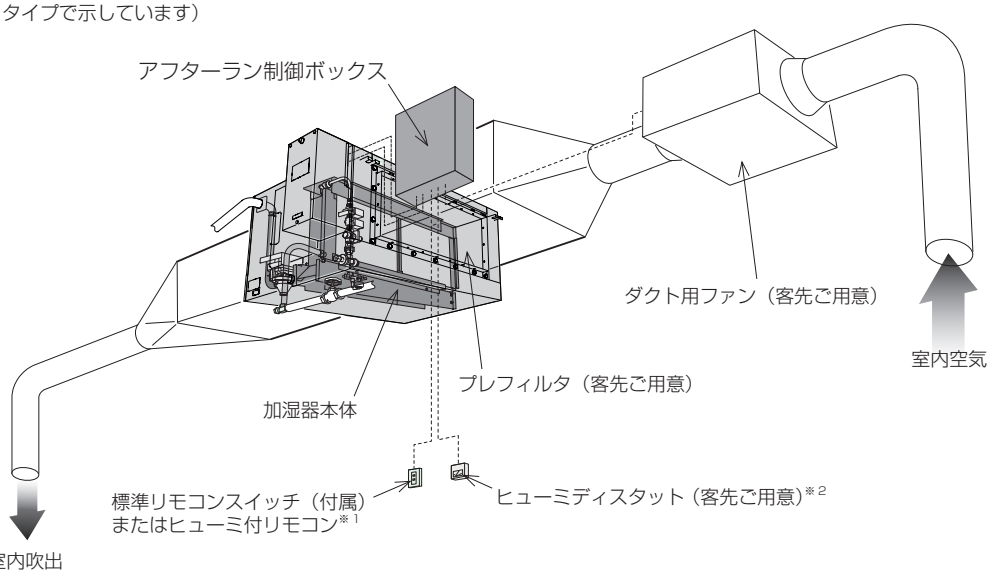
●アフターラン制御ボックスは、ダクト接続型滴下浸透気化式加湿器 WM-VSC タイプまたは WM-VSB タイプとダクト用ファン（客先ご用意）を接続し、室内直接加湿（室内循環加湿）を行うための制御ボックスです。

●アフターラン制御ボックスは、加湿器本体とダクト用ファン（客先ご用意）との連動運転制御を行いますが、加湿運転の任意の設定は、外部指令（無電圧接点入力）による遠方発停、または室内に設置したアフターラン制御ボックス用リモコンスイッチによる手元発停が行え、いずれの場合も「後押し優先」となります。

●加湿運転中はヒューミ付リモコンまたは客先ご用意のヒューミディスタットからの加湿信号により自動運転を行います。

●加湿器の衛生対策として、アフターラン機能を搭載しています。加湿運転停止後に約 1 時間のファンアフターラン（加湿モジュール乾燥のための送風運転）を行います。

概略図（図は VSC タイプで示しています）

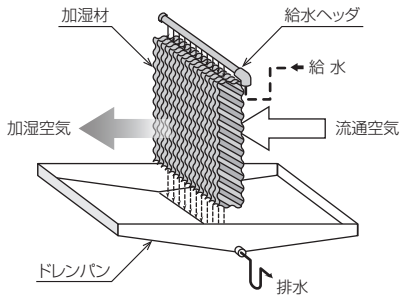


※ 1: 本書に記載の「リモコンスイッチ」は、「標準リモコンスイッチ」または「ヒューミ付リモコン」を指し、アフターラン制御ボックス専用です。
加湿器本体 VSC タイプまたは VSB タイプにオプションで付属するリモコンスイッチとは異なりますのでご注意ください。
※ 2: ヒューミ付リモコンを使用する場合は、客先でご用意いただく必要はありません。

1-2 加湿原理について

●給水は本体内上部の給水ヘッダを通って加湿材に均一に滴下され、下方に向かって浸透します。気流が加湿材を通過する際に加湿材表面から水分のみが気化蒸発して加湿が行われ、余剰水は加湿材の汚れなどを含みながらドレンとして排水されます（自己洗浄効果）。

加湿原理のモデル図



1-3 使用場所の制限について

●滴下浸透気化式加湿器は、下記のような現場では使用できないことがありますので、事前に当社宛お問い合わせください。

＊ 通気、設置場所に腐食性ガスが予想される場合
＊ 厨房、食品工場その他、通気に塩分やオイルミストを含むおそれのある場合
＊ 機械工場など、通気に金属製の塵埃を含むおそれのある場合
＊ 病院などの特殊空調

2 施工

2-1 施工前の確認事項

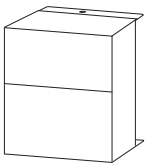
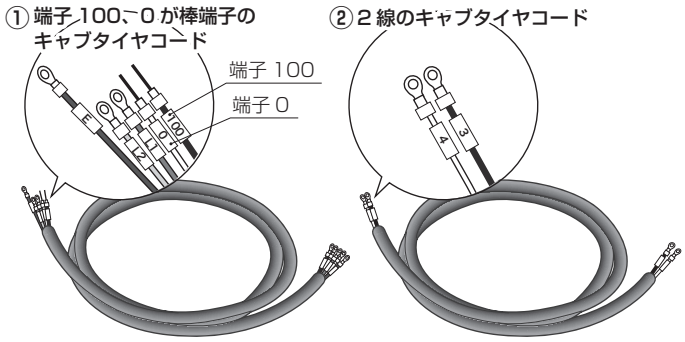
2-1-1 VSC タイプの場合

施工をはじめる前に以下の各項を確認し、不都合な点があれば必ず修正してください。

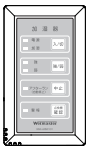
（1）梱包内容の確認

●標準品の梱包内容（付属品）は下記のとおりです。開封後は直ちに内容を確認してください。

A 本体梱包

部品名称	仕様など	形状	個数
①アフターラン 制御ボックス本体	SGCC 取付穴 2- φ 13		1 台
②接続コード	制御ボックス～ 加湿器本体接続用 1 m		3 本※
		※接続コードは 3 本梱包されていますが、実際に使用するのはそのうちの 2 本です。端子 100、0 が棒端子のキャブタイヤコード 1 本と、2 線のキャブタイヤコード 1 本の計 2 本をご使用ください。	
③施工要領書 / 取扱説明書	本書	——	1 冊

B リモコンスイッチ梱包

部品名称	仕様など	形状	個数
①リモコンスイッチ （標準リモコンスイッチ またはヒューミ付リモコン）	——	標準リモコンスイッチ　ヒューミ付リモコン または  ※リモコンスイッチは、加湿器本体 VSC タイプにオプションで付属するリモコンスイッチとは異なります。	1 ヶ
②初期設定操作説明書	——	——	1 部

(2) 客先ご用意の部材などの確認

●付属品のほか、下記の客先ご用意の部材などを確認してください。また下記以外の部材については、現場の必要に応じて適宜ご用意ください。

①ダクト用ファン（AC100V、ファン用制御リレー接点容量：7.5A（誘導負荷）、強弱切替端子付）

参考型番、能力（下記、静圧表記は 50/60Hz）

	WM-VSCØ6L/H 用	WM-VSC12L/H 用
ダイキン工業㈱製	VFDS700B （強 500m^3/h 時 静圧 118/168Pa）	VFDS1300B （強 1000m^3/h 時 静圧 174/258Pa）
三菱電機㈱製	BFS-65SUC （強 600m^3/h 時 静圧 138/180Pa）	BFS-120SUC （強 1200m^3/h 時 静圧 200/265Pa）

②ヒューミディスタット※（二位置式、接点容量 2A 以上）

※ヒューミ付リモコンを使用する場合は不要です。

③各制御ボックスごとに漏電ブレーカ

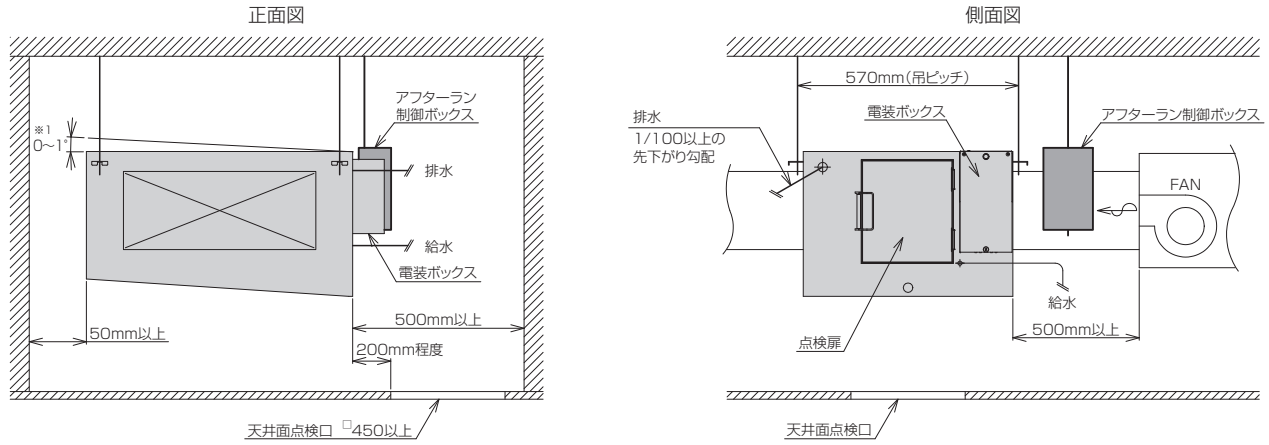
④吊ボルト用アンカー、全ネジ、ナット、ワッシャ（M10）

アフターラン制御ボックス本体の運転時質量は約 2.9kg です。荷重に十分に耐えられるだけの強度を確保してください。

(3) 加湿器本体およびアフターラン制御ボックス取付位置の確認

●図 -1 に示す加湿器本体およびアフターラン制御ボックス周囲スペースが確保できることを確認してください。

図 -1 VSC タイプ本体周囲スペース



※ 1：本体は必ず水平もしくは排水口（点検扉）側が 1° 以内の傾斜となるように取り付けてください。
※アフターラン制御ボックスは、加湿器本体用点検口の近傍に取り付けるか、専用の点検口を設けてください。
※アフターラン制御ボックスと加湿器本体との接続コード（付属）は 1 m です。

(4) 使用条件などの確認

●下記の使用条件などを満足していることを確認してください。

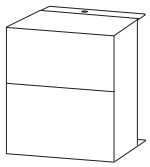
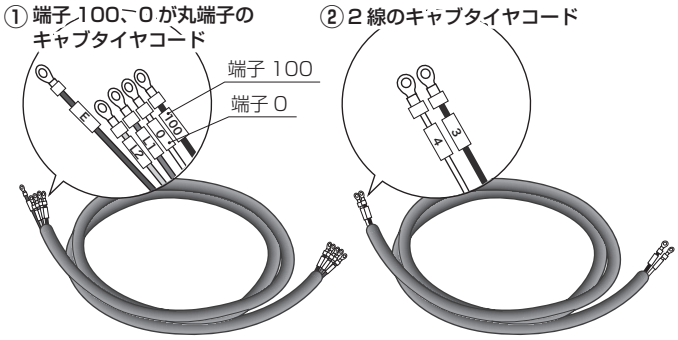
①電源電圧　　：AC100V（50/60Hz 共用）
②周囲温湿度　　：5 ～ 40℃、80% RH 以下

2-1-2 VSB タイプの場合

（1）梱包内容の確認

●標準品の梱包内容（付属品）は下記のとおりです。開封後は直ちに内容を確認してください。

A 本体梱包

部品名称	仕様など	形状	個数
①アフターラン 制御ボックス本体	SGCC 取付穴 2- φ 13		1 台
②接続コード	制御ボックス～ 加湿器本体接続用 1 m		3 本※
		※接続コードは 3 本梱包されていますが、実際に使用するのはそのうちの 2 本です。端子 100、0 が丸端子のキャブタイヤコード 1 本と、2 線のキャブタイヤコード 1 本の計 2 本をご使用ください。	
③施工要領書 / 取扱説明書	本書	——	1 冊

B リモコンスイッチ梱包

部品名称	仕様など	形状	個数
①リモコンスイッチ （標準リモコンスイッチ またはヒューミ付リモコン）	——	標準リモコンスイッチ　ヒューミ付リモコン ※リモコンスイッチは、加湿器本体 VSB タイプにオプションで付属するリモコンスイッチとは異なります。	1 ヶ
②初期設定操作説明書	——	——	1 部

(2) 客先ご用意の部材などの確認

●付属品のほか、下記の客先ご用意の部材などを確認してください。また下記以外の部材については、現場の必要に応じて適宜ご用意ください。

①ダクト用ファン（AC100V、ファン用制御リレー接点容量：7.5A（誘導負荷）、強弱切替端子付）

参考型番、能力（下記、静圧表記は 50/60Hz）

	WM-VSB600L/H 用	WM-VSB1200L/H 用
ダイキン工業㈱製	VFDS700B （強 500m^3/h 時 静圧 118/168Pa）	VFDS1300B （強 1000m^3/h 時 静圧 174/258Pa）
三菱電機㈱製	BFS-65SUC （強 600m^3/h 時 静圧 138/180Pa）	BFS-120SUC （強 1200m^3/h 時 静圧 200/265Pa）

②ヒューミディスタット※（二位置式、接点容量 2A 以上）

※ヒューミ付リモコンを使用する場合は不要です。

③各制御ボックスごとに漏電ブレーカ

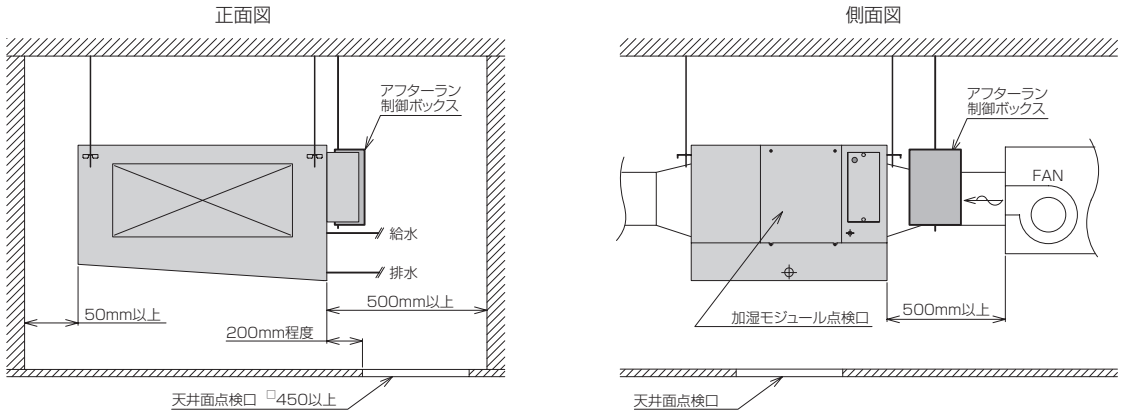
④吊ボルト用アンカー、吊ボルト、ナット、ワッシャ（M10）

アフターラン制御ボックス本体の運転時質量は約 2.9kg です。荷重に十分に耐えられるだけの強度を確保してください。

(3) 加湿器本体およびアフターラン制御ボックス取付位置の確認

●図 -2 に示す加湿器本体およびアフターラン制御ボックス周囲スペースが確保できることを確認してください。

図 -2 VSB タイプ本体周囲スペース



※アフターラン制御ボックスは、加湿器本体用点検口の近傍に取り付けるか、専用の点検口を設けてください。
※アフターラン制御ボックスと加湿器本体との接続コード（付属）は 1 mです。

(4) 使用条件などの確認

●下記の使用条件などを満足していることを確認してください。

①電源電圧　　：AC100V（50/60Hz 共用）
②周囲温湿度　　：5 ～ 40℃、80% RH 以下

2-2 取付

2-2-1 アフターラン制御ボックス本体の取付

⚠ 注意	●取付は、本体の重さに十分耐える所に確実に行ってください。強度不足や取付工事に不備があると、落下などによる事故の原因になります。

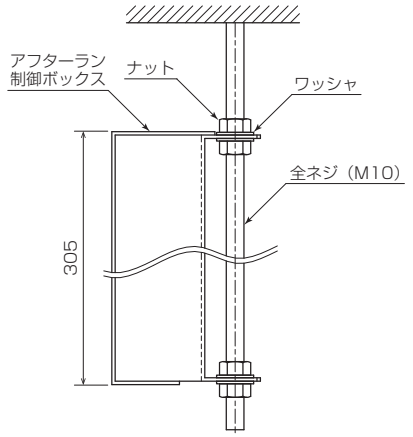
●アフターラン制御ボックスの吊込寸法は図 -3 を参照してください。

●吊ボルトを取り付け、必ずダブルナットで固定してください。取付穴の径は 2- φ 13 です。

●あらかじめボルトにナットを各 1 ヶ通します。ボックスを吊り上げながらナットを各2ヶ通し、さらに吊り上げてナットを各1ヶ通し、合計各4ヶのナットで固定してください（図 -3）。

●アフターラン制御ボックスは、加湿器本体用点検口の近傍に取り付けるか、専用の点検口を設けてください。アフターラン制御ボックスと加湿器本体との接続コード（付属）は1mです。

図 -3 吊込寸法



2-2-2 リモコンスイッチの取付と配線要領

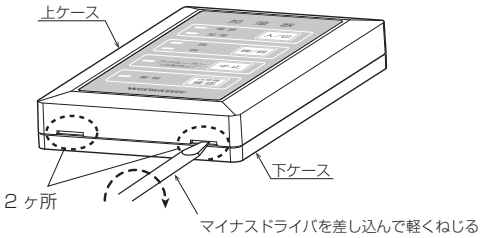
●リモコンスイッチは必ずご使用ください。リモコンスイッチを使用しないと運転できません。

●リモコンスイッチ取付に当って、JIS ボックスをご用意ください（JIS C 8340 適合品、ピッチ 83.5mm、客先ご用意）。

①リモコンスイッチ下面の凹部に、マイナスドライバを差し込んで軽くねじり（2 ヶ所）、上ケースを外してください（図 -4）。

⚠ 注意	●リモコンスイッチ基板は上ケースに付いています。ドライバ等で基板を傷つけないように注意してください。 ●基板にゴミあるいは水分などが付着しないように注意してください。

図 -4 リモコンスイッチケースの開け方



※イラストは標準リモコンスイッチで表していますが、ヒューミ付リモコンの場合も同様です。

②壁面の JIS ボックスに下ケースを取り付けます。

・取付用のネジは JIS ボックスに合わせて現地でご手配ください。

・ヒューミ付リモコンの場合、リモコンスイッチのサイドスイッチ操作と湿度感知に影響するため、壁面へ取り付ける際は左側面から 50mm の空間を空けてください。

③配線引込穴から配線を引き込み、リモコンスイッチ基板の端子に接続します（P.8 図 -5）。

・線材は 0.5 ～ 0.75mm^2 のシース付きビニルコードまたはケーブルをご使用ください（客先ご用意）。

・配線はM3ねじ用裸丸端子を使用し、リモコンスイッチ基板の端子C1、C2に配線し、C1、C2が接触しないように取回してください。また、インパクトドライバ等で締め付けた場合、端子台破損の原因になりますのでご注意ください。

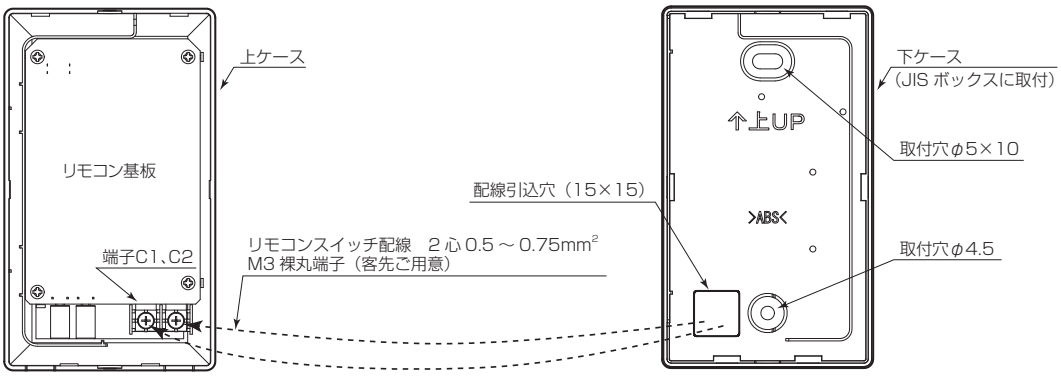
・リモコンスイッチ基板の C1、C2 とアフターラン制御ボックスの端子 C1、C2 と接続してください（C1 と C2 の極性はありません）。

④配線を挟まないように注意してリモコンスイッチケースを元通り閉じてください。

※露出配線を行う場合は、P.9 図 -6 をご参照ください。

図 -5 リモコンスイッチの取付と配線要領

標準リモコンスイッチの場合



ヒューミ付リモコンの場合

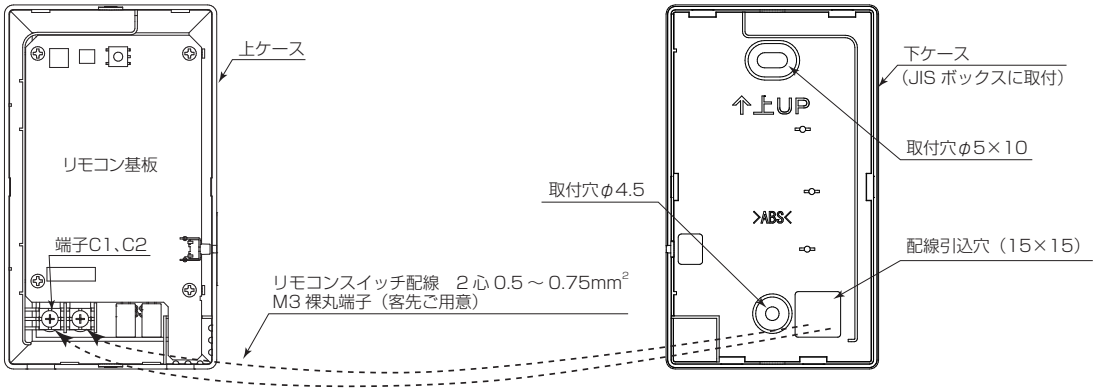


図 -6 露出配線を行う場合

●配線方向は P.7 ～ 8 の後方引き込みの他に、下記の方法で下方引き込みまたは上方引き込みとすることが出来ます。

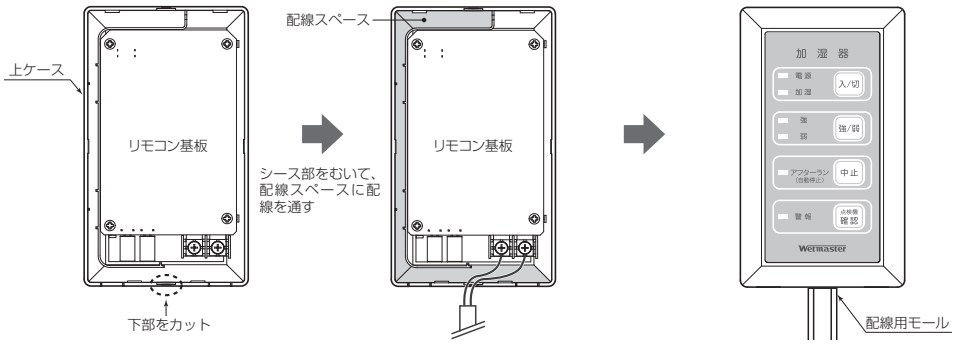
①配線方向にあわせてニッパなどで上ケースの薄肉部を切り取り、ヤスリなどでバリをとってください。
　その際、ケースを割らないように注意して作業してください。

②配線の引き込み方向にあわせてリモコンスイッチケース内に入るケーブルのシース部をむき、下図のように配線を回してください。

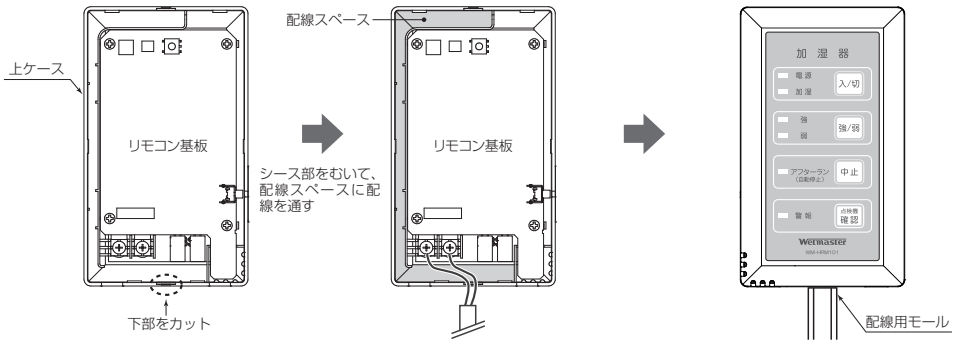
③配線を挟まないように注意して、壁面に取り付けた下ケースに上ケースをはめ合せてください。
　また、露出配線は上ケースが外せるように注意して配線用モール（客先ご用意）などで処理してください。

【下方引き込みの場合】

標準リモコンスイッチの場合

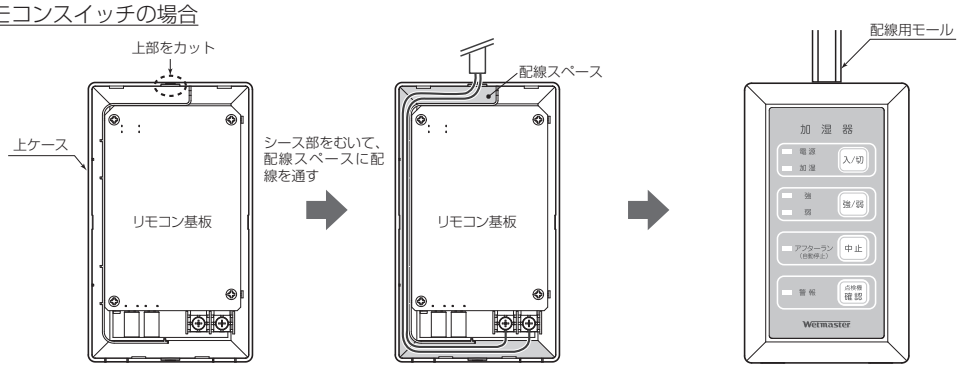


ヒューミ付リモコンの場合

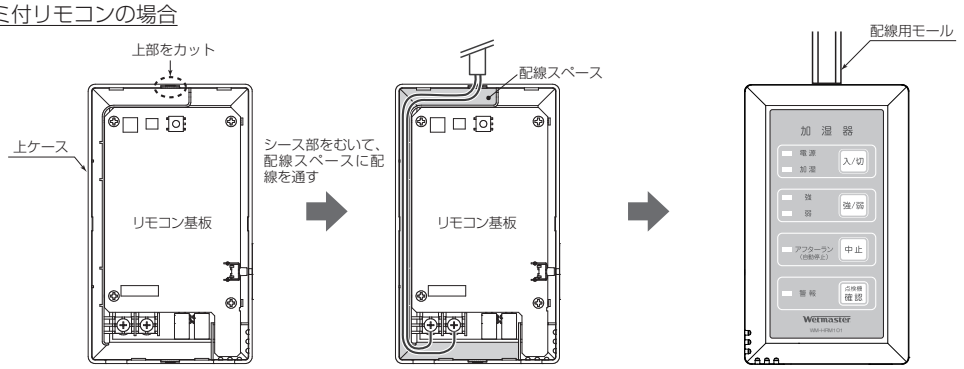


【上方引き込みの場合】

標準リモコンスイッチの場合



ヒューミ付リモコンの場合



2-3 電気配線

⚠ 警告	●電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規定」に従って施工してください。電気回路の容量不足や施工不備があると、感電、火災の原因になります。 ●各配線の接続は確実に行い、接続部にケーブルの外力が加わらないように確実に固定してください。施工不備があると、感電、火災の原因になります。 ●端子台への各配線接続は、1P あたり 2 線までとしてください。1P に 3 線以上接続すると接触不良となり、発熱、火災の原因になります。 ●端子台に接続する絶縁丸型端子は、使用する線材の電線径に適合するものをご使用ください。径の適合しないものを使用すると線の抜けや接触不良を起こし、感電、火災の原因になります。 ●アフターラン制御ボックスコントロールユニットのディップスイッチ切替作業は、必ず漏電ブレーカを OFF にし、電源供給を停止してから行ってください。通電したままの作業は感電の原因になります。

⚠ 注意	●端子台ねじの締付トルクは 0.5N・m です。インパクトドライバ等で締め付けた場合、端子台破損の原因になります。

2-3-1 共通事項

●電気配線は客先ご用意となります。加湿器電源として専用回路を使用してください。

●現場の指示等をよくご確認のうえ、確実な電気工事をお願いします。配線は、ご使用の加湿器とリモコンスイッチの組み合わせによって異なります。表 1 から該当する「電気回路図」「結線要領図」を参照してください。

●接続コードは３本梱包されていますが、実際に使用するのはそのうちの２本です。型番ごとに使用するものが異なるため、図 -7 を参照して適切な接続コードを使用してください。

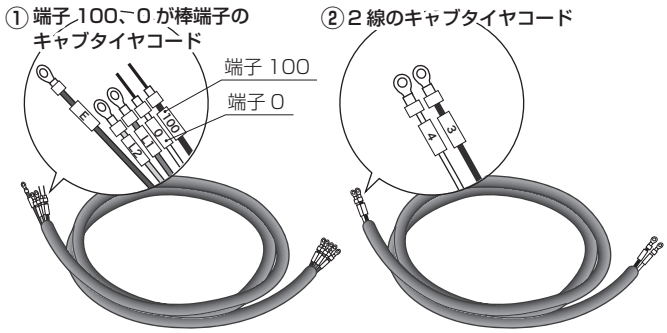
表 1 加湿器本体とリモコンスイッチの各組み合わせにおける各種図面の参照ページ

加湿器本体	VSC タイプ		VSB タイプ	
リモコンスイッチ	標準リモコン	ヒューミ付リモコン	標準リモコン	ヒューミ付リモコン
電気回路図	P.12	P.14	P.16	P.18
結線要領図	P.13	P.15	P.17	P.19

図 -7 各型番ごとに使用する接続コード見分け方

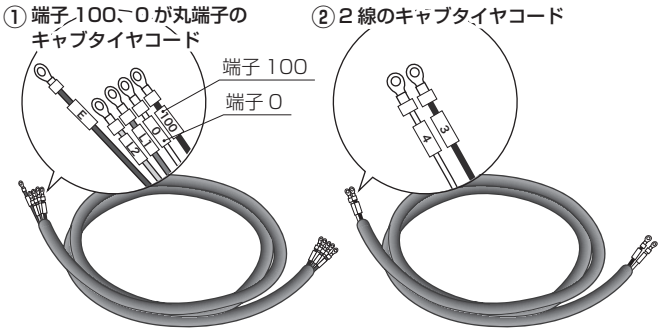
VSC タイプに使用する接続コード

① 端子 100、0 が棒端子のキャブタイヤコード
② 2 線のキャブタイヤコード



VSB タイプに使用する接続コード

①端子 100、0 が丸端子のキャブタイヤコード
② 2 線のキャブタイヤコード



●加湿器元電源には必ず漏電ブレーカを設けてください。漏電事故防止および保守点検作業時の安全のため必要です。

●リモコンスイッチは必ずご使用ください。リモコンスイッチを使用しないと運転できません。また、リモコンスイッチ 1 ヶで加湿器本体 10 台まで同時制御を行うことができます。

●複数台の加湿器をリモコンスイッチ 1 ケで同時制御させる場合には、加湿器台数分のアフターラン制御ボックスが必要になります。あわせて漏電ブレーカも各加湿器ごとにご用意ください。

●リモコンスイッチの配線は、P.7「2-2-2 リモコンスイッチの取付と配線要領」も参照してください。

●リモコンスイッチ配線（リモコンスイッチ⇔アフターラン制御ボックス -1）および渡り線（アフターラン制御ボックス -1 ⇔アフターラン制御ボックス -2・・・）の信号配線の総配線長は 100m 以内としてください。

●リモコンスイッチとアフターラン制御ボックスを結線した後、加湿器の運転前にはアドレス設定が必要です。アドレス設定を行わないと運転することが出来ません。P.20「3-1 アドレス設定（リモコンスイッチ初期設定操作）、接続台数確認」に従ってアドレス設定を行ってください。

●運転信号および警報信号を使用する場合は、P.21「3-3 運転信号出力および警報信号出力（外部信号出力）を使用する場合」を参照してください。

●外部指令信号入力で発停を行う場合には、P.22「3-4 外部指令信号入力による遠方発停（外部指令制御）を使用する場合のディップスイッチ設定」を参照してください。

●電源線はファン（客先ご用意）の容量に応じた線材を選定してください。また、加湿器本体への配線は付属の接続コード2本を使用してください。リモコンスイッチ配線、ヒューミディスタット配線、外部指令信号入力配線（C1、C2、L1、L2、5、6、7、8）は 0.5 ～ 0.75mm^2 をご使用ください。

●強電の電源ラインと弱電の信号ライン（C1、C2、L1、L2、5、6、7、8）は分けて配線してください。同一管路内に納めて配線すると、誤動作の原因になります。

●必ずアース接続（D種接地工事）を行ってください。アースが不完全な場合は、感電の原因になることがあります。

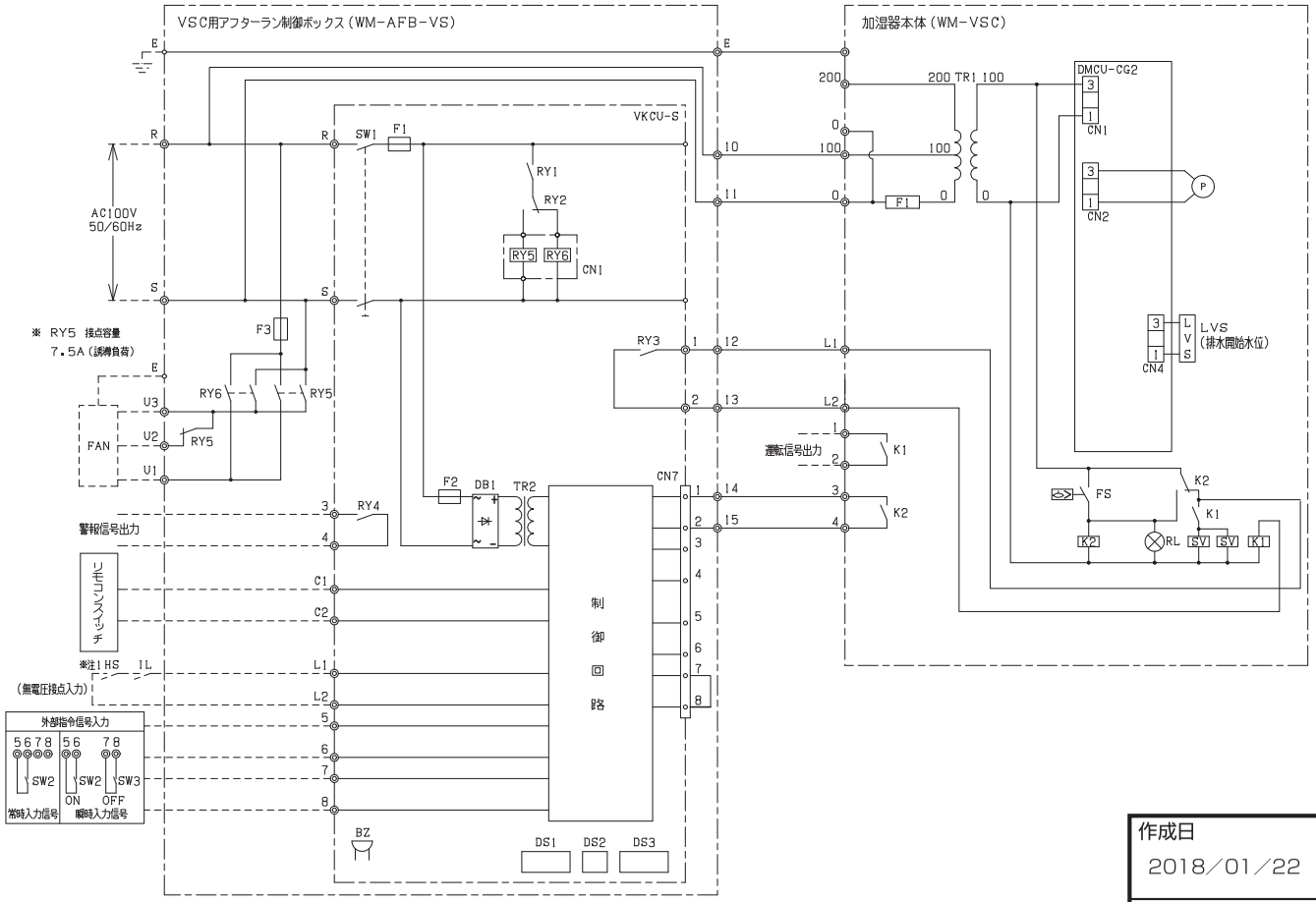
2-3-2 標準リモコンスイッチを使用する場合

●客先ご用意のヒューミディスタットについては表 2 を参照し、配線を行ってください。

表 2 ヒューミディスタット有無における注意事項

ヒューミディスタットの有無	注意事項
ヒューミディスタットを 使用する場合	● 1 つのリモコンスイッチで複数台制御する場合、ヒューミディスタットを複数個使用して各加湿器を個別に制御することはできません。必ずヒューミディスタットとリモコンスイッチは 1 対 1 となるようにしてください。 ●ヒューミディスタットは湿度低下で接点が ON となる形式で、接点容量 100V・2A 以上のものをご用意ください。ヒューミディスタット 1 個で加湿器 10 台まで同時制御を行います。 ●ヒューミディスタットは下記の各図面を参照し、「アフターラン制御ボックス」の端子 L1、L2（無電圧接点入力）に接続してください。 VSC タイプ ⇒ P.13「結線要領図」、VSB タイプ ⇒ P.17「結線要領図」 ● 1 つのリモコンスイッチで複数台制御する場合、「アフターラン制御ボックス -1」の端子 L1、L2 への接続のみで全数の運転制御ができます。
ヒューミディスタットを 使用しない場合	●ヒューミディスタットを使用しない場合は下記の各図面を参照し、「アフターラン制御ボックス」の端子 L1、L2 を短絡してください。L1、L2 が短絡されない場合、加湿器は運転しません。 VSC タイプ ⇒ P.13「結線要領図」、VSB タイプ ⇒ P.17「結線要領図」 ● 1 つのリモコンスイッチで複数台制御する場合でも端子 L1、L2 の短絡は「アフターラン制御ボックス -1」のみで全数の運転ができます。

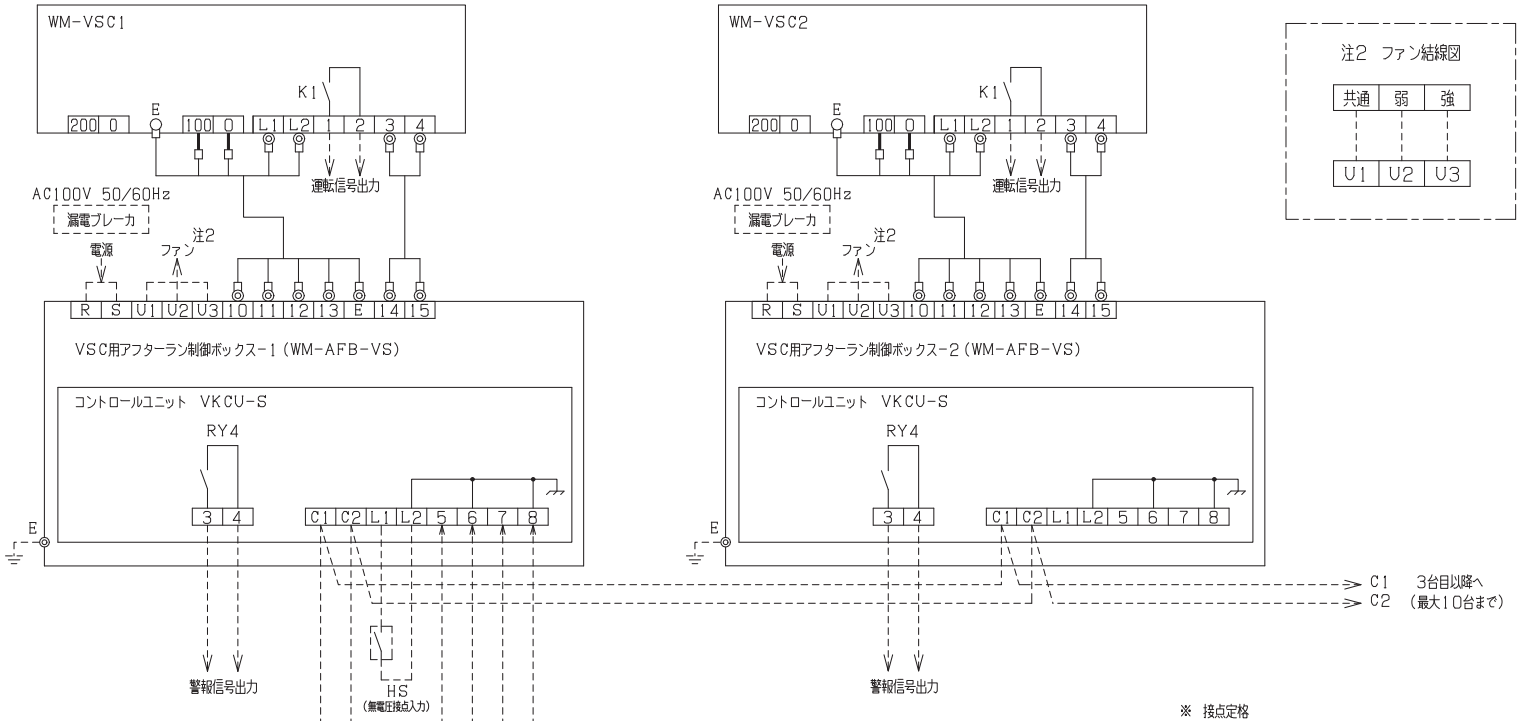
・アフターラン制御ボックスへの電源線はファン容量に応じた線材を選定してください。
　加湿器本体（WM−VSCタイプ）への配線は加湿器L1，L2の短絡線をはずしてアフターラン制御ボックスに付属の接続コードを2本使用します。
・アフターラン制御ボックスからの線材（C1，　C2，　L1，　L2，　5，　6，　7，　8）は0.5~0.75mm^{2}をご使用ください。
・加湿器の運転を長期休止する場合、点検などやむを得ず電源をOFFとする場合には給水元バルブを閉じ、万一の場合にも水が流れて漏水事故にならないようにしてください。
・アース（E）はD種接地工事にて施工してください。



※注1　ヒューミディスタット（HS）、空調機インタロック（IL）を使用しない場合は、VSC用アフターラン制御ボックス（WM−AFB−VS）のL1−L2間を短絡してください。
また、ヒューミディスタット（HS）、空調機インタロック（IL）を接続する場合は無電圧接点を配線してください。

番号	記号	部品名称	仕様
32	CN1，2，4，7	基板上コネクタ	
31	LVS	レベルセンサ	2極
30	P	ポンプ	AC100V モールドコイル
29	FAN	ダクト用ファン	AC100V　客先ご用意
28	SV	給水用電磁弁（VSC）	AC100V
27	RL	ドレンパン高水位異常ランプ（VSC）	赤色
26	K2	異常信号リレー（VSC）	AC100V 2c
25	K1	加湿運転信号リレー（VSC）	AC100V 2c
24	FS	高水位検知用フロートスイッチ（VSC）	上ON
23	TR1	トランス（VSC）	200V/100V
22	F1	ヒューズ（VSC）	ガラス管 1A
21	E	アース	D種接地工事
20	BZ	圧電ブザー	（警報発生器確認用）
19	DS3	ディップスイッチ	4P（外部指令信号入力設定 運転信号出力設定）
18	DS2	ディップスイッチ	2P
17	DS1	ディップスイッチ	4P
16	DB1	全波整流器	4A 600V耐圧
15	RY6	ファン運転リレー（弱）	AC100V 2c
14	RY5	ファン運転リレー（強）	AC100V 3c
13	RY4	警報信号リレー	DCリレー 1a
12	RY3	運転信号リレー	DCリレー 1a
11	RY2	ファン強弱切換用リレー	DCリレー 1c
10	RY1	ファン運転用リレー	DCリレー 1a
9	SW3	外部指令入力接点	瞬時停止（客先用意）
8	SW2	外部指令入力接点	瞬時or常時入力（客先用意）
7	HS	ヒューミディスタット	客先ご用意
6	TR1~2	トランス	絶縁型
5	F3	ヒューズ（AFB−VS）	ガラス管 10A
4	F2	ヒューズ（AFB−VS）	ガラス管 3A
3	F1	ヒューズ（AFB−VS）	ガラス管 3A
2	SW1	電源スイッチ	波型（基板搭載）
1	VKCU−S	コントロールユニット	マイコン制御

作成日 2018／01／22	図面名称 ウエットマスター VSC WM-AFB-VS VSC用アフターラン制御ボックス 電気回路図		
更新日 2018／01／22	部品コード	ウエットマスター株式会社 WETMASTER CO., LTD	
図　番 ASCQSB00002		訂正回数 0	葉　別 1／1



※ 接点定格

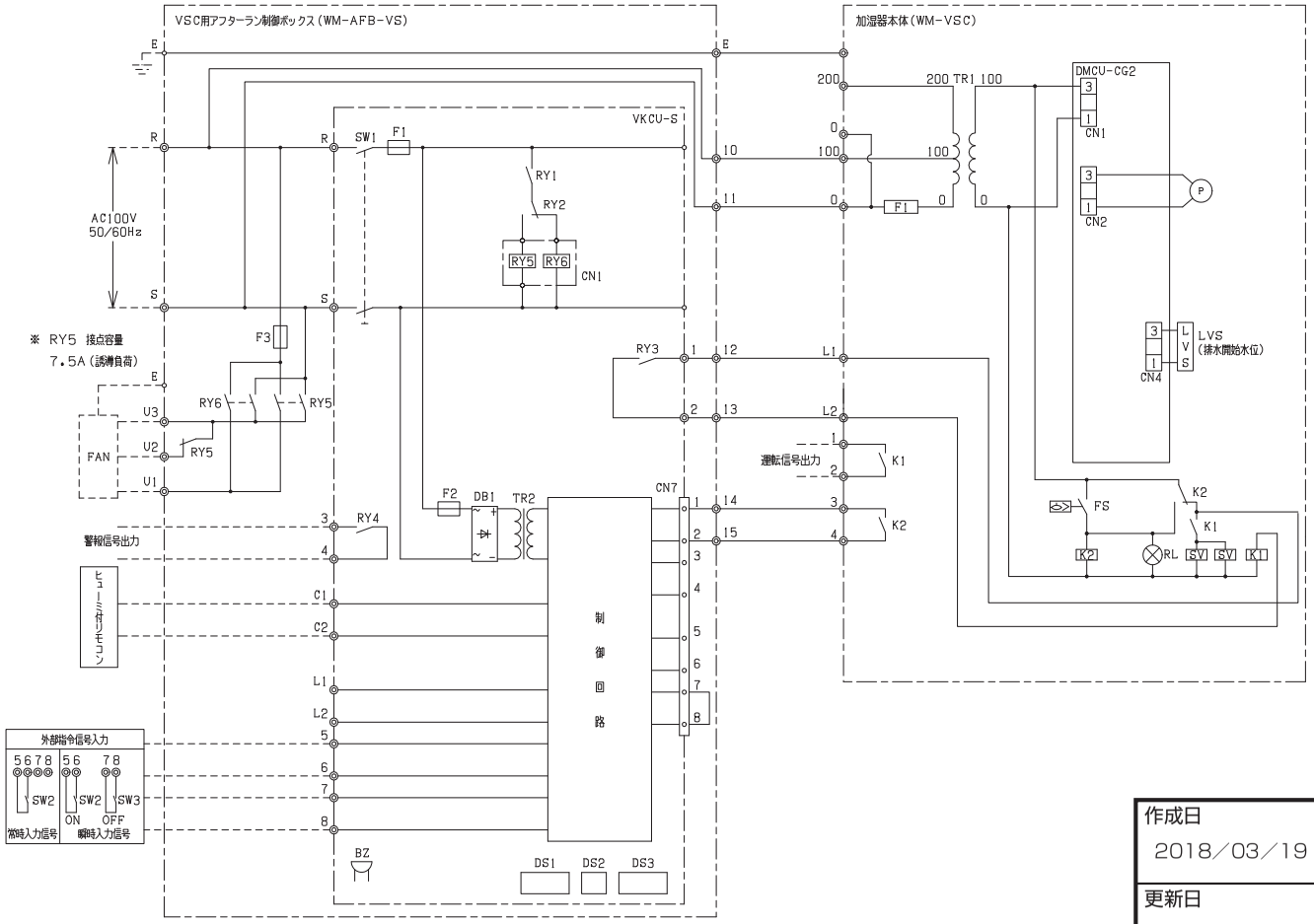
	運転信号（K1）	警報信号（RY4）
抵抗負荷	AC125V 3A DC30V 3A	AC125V 3A DC30V 3A
誘導負荷	AC125V 1.5A DC30V 0.6A	AC125V 1A DC30V 1A

※ 通電電圧／電流
DC12V/DC10mA

※ 破線部分は客先ご用意となります。
※ アフターラン制御ボックスへの電源線はファン容量に応じた線材を選定してください。
加湿器本体（WM－VSCタイプ）への配線は加湿器L1，L2の短絡線をはずして
アフターラン制御ボックスに付属の接続コードを2本使用します。
※ アフターラン制御ボックスからの線材（C1， C2， L1， L2， 5， 6， 7， 8）は
0.5～0.75mm^2 をご使用ください。
※ 加湿器の運転を長期休止する場合、点検などやむを得ず電源をOFFとする場合には給水元バルブを閉じ、
万一の場合にも水が流れて漏水事故にならないようにしてください。
※ リモコンスイッチは必ずご使用ください。リモコンスイッチを使用しないと運転できません。
※ リモコン1ヶで、本体10台まで同時制御可能です。
※ ヒューミディスタット（HS）および外部指令信号入力の渡り線は不要です。
※ ヒューミディスタットを使用しない場合には、アフターラン制御ボックス－1の端子台L1－L2間を短絡してください。
※ 外部指令信号入力に瞬時入力信号を使用する場合は、アフターラン制御ボックス－1のコントロールユニットの
ディップスイッチ（DS3 1番ピン）の設定を変更してください。
※ 外部指令信号入力のうち瞬時入力信号の場合は、100msec（0.1秒）以上の接点を入力してください。
※ アース（E）はD種接地工事にて施工してください。

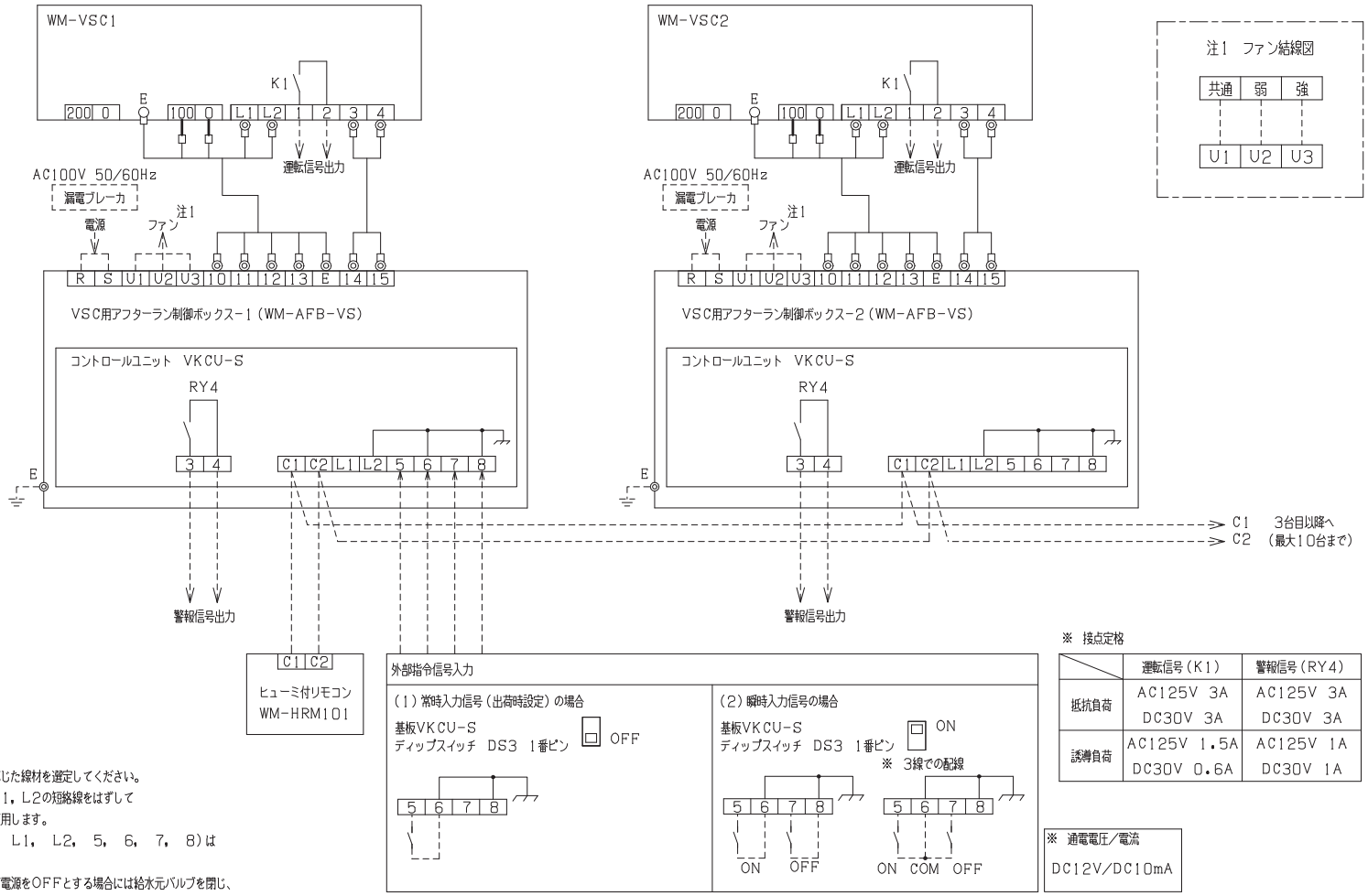
作成日 2018／01／22	図面名称 ウエットマスター VSC WM-AFB-VS VSC用アフターラン制御ボックス 結線要領図		
更新日 2018／01／22	部品コード	ウエットマスター株式会社 WETMASTER CO., LTD	
図 番	ASCQSJ00003	訂正回数 0	葉 別 1／1

- アフターラン制御ボックスへの電源線はファン容量に応じた線材を選定してください。
  加湿器本体（WM-VSCタイプ）への配線は加湿器L1，L2の短絡線をはずしてアフターラン制御ボックスに付属の接続コードを2本使用します。
- アフターラン制御ボックスからの線材（C1， C2， L1， L2， 5， 6， 7， 8）は0.5~0.75mm^{2}をご使用ください。
- 加湿器の運転を長期休止する場合、点検などやむを得ず電源をOFFとする場合には給水元バルブを閉じ、万一の場合にも水が流れて漏水事故にならないようにしてください。
- アース（E）はD種接地工事にて施工してください。
- ヒューミ付リモコンの出荷時設定湿度は40%RHです。リモコンスイッチの操作により変更可能です。



番号	記号	部品名称	仕様
31	CN1，2，4，7	基板上コネクタ	
30	LVS	レベルセンサ	2極
29	P	ポンプ	AC100V モールドコイル
28	FAN	ダクト用ファン	AC100V 客先ご用意
27	SV	給水用電磁弁（VSC）	AC100V
26	RL	ドレンパン高水位異常ランプ（VSC）	赤色
25	K2	異常信号リレー（VSC）	AC100V 2c
24	K1	加湿運転信号リレー（VSC）	AC100V 2c
23	FS	高水位検知用フロートスイッチ（VSC）	上ON
22	TR1	トランス（VSC）	200V/100V
21	F1	ヒューズ（VSC）	ガラス管 1A
20	E	アース	D種接地工事
19	BZ	圧電ブザー	（警報発生器確認用）
18	DS3	ディップスイッチ	4P（外部指令信号入力設定 運転信号出力設定）
17	DS2	ディップスイッチ	2P
16	DS1	ディップスイッチ	4P
15	DB1	全波整流器	4A 600V耐圧
14	RY6	ファン運転リレー（弱）	AC100V 2c
13	RY5	ファン運転リレー（強）	AC100V 3c
12	RY4	警報信号リレー	DCリレー 1a
11	RY3	運転信号リレー	DCリレー 1a
10	RY2	ファン強弱切換用リレー	DCリレー 1c
9	RY1	ファン運転用リレー	DCリレー 1a
8	SW3	外部指令入力接点	瞬時停止（客先用意）
7	SW2	外部指令入力接点	瞬時or常時入力（客先用意）
6	TR1~2	トランス	絶縁型
5	F3	ヒューズ（AFB-VS）	ガラス管 10A
4	F2	ヒューズ（AFB-VS）	ガラス管 3A
3	F1	ヒューズ（AFB-VS）	ガラス管 3A
2	SW1	電源スイッチ	波型（基板搭載）
1	VKCU-S	コントロールユニット	マイコン制御

作成日 2018/03/19	図面名称 ウエットマスター VSC WM-AFB-VS VSC用アフターラン制御ボックス（ヒューミ付リモコン付属） 電気回路図		
更新日 2018/03/19	部品コード	ウエットマスター株式会社 WETMASTER CO., LTD	
図番 ASCQSB00006		訂正回数 0	葉別 1/1



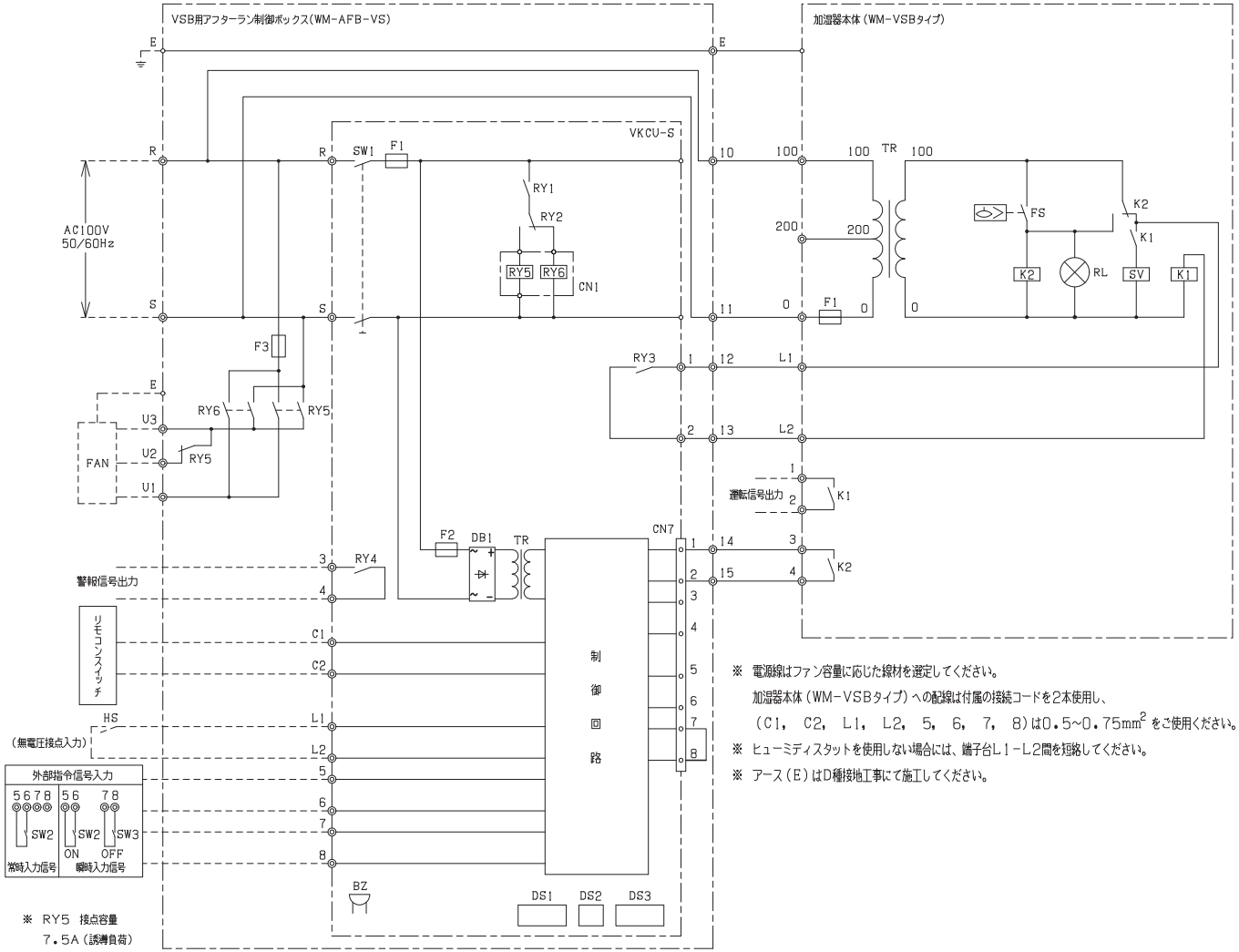
※ 接点定格

	運転信号（K1）	警報信号（RY4）
抵抗負荷	AC125V 3A DC30V 3A	AC125V 3A DC30V 3A
誘導負荷	AC125V 1.5A DC30V 0.6A	AC125V 1A DC30V 1A

※ 通電電圧／電流
DC12V/DC10mA

※ 破線部分は客先ご用意となります。
※ アフターラン制御ボックスへの電源線はファン容量に応じた線材を選定してください。
加湿器本体（WM-VSCタイプ）への配線は加湿器L1，L2の短絡線をはずして
アフターラン制御ボックスに付属の接続コードを2本使用します。
※ アフターラン制御ボックスからの線材（C1， C2， L1， L2， 5， 6， 7， 8）は
0.5~0.75mm^2 をご使用ください。
※ 加湿器の運転を長期休止する場合、点検などやむを得ず電源をOFFとする場合には給水元バルブを閉じ、
万一の場合にも水が流れて漏水事故にならないようにしてください。
※ リモコンスイッチは必ずご使用ください。リモコンスイッチを使用しないと運転できません。
※ リモコン1ヶで、本体10台まで同時制御可能です。
※ AC100V電源は単独で配線してください。
※ 外部指令信号入力の渡り線は不要です。
※ 外部指令信号入力に瞬時入力信号を使用する場合は、アフターラン制御ボックス-1のコントロールユニットの
ディップスイッチ（DS3 1番ピン）の設定を変更してください。
※ 外部指令信号入力のうち瞬時入力信号の場合は、100msec（0.1秒）以上の接点を入力してください。
※ アース（E）はD種接地工事にて施工してください。

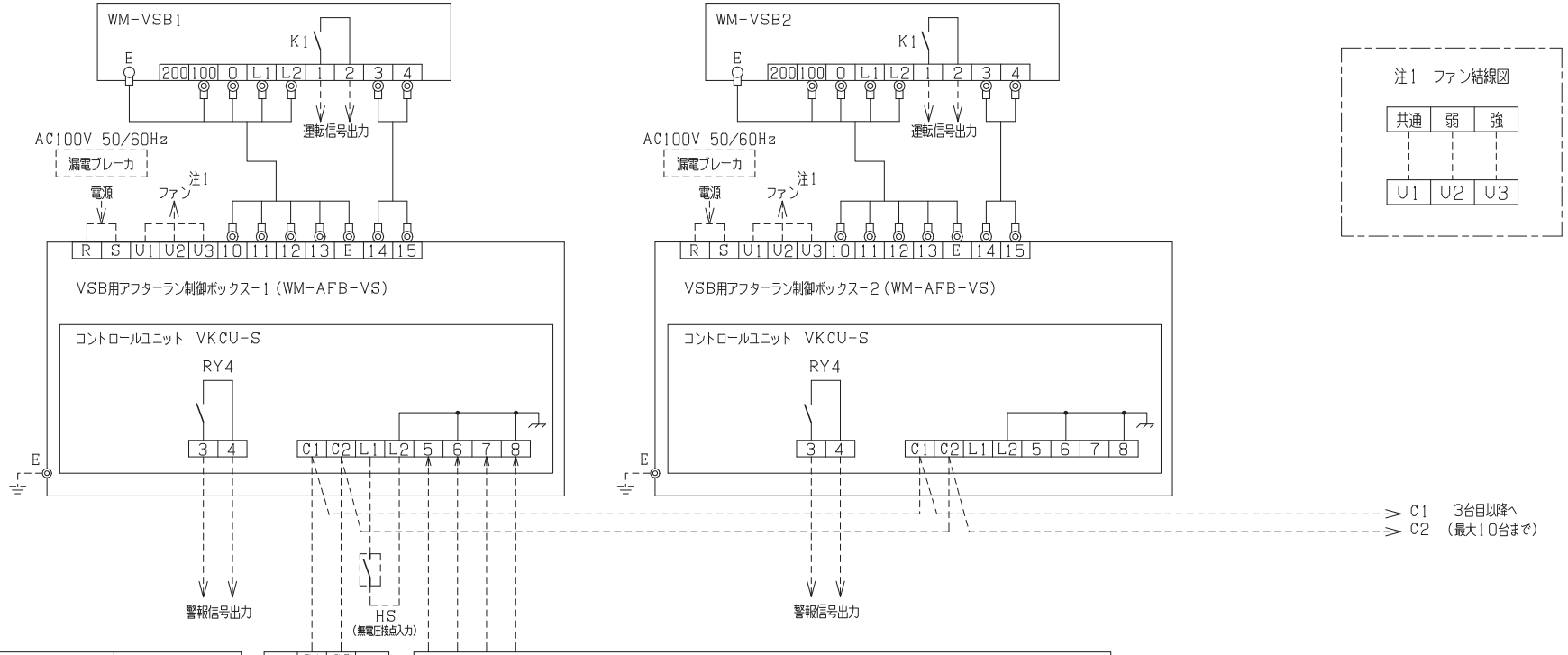
作成日 2018／03／19	図面名称 ウエットマスター VSC WM-AFB-VS VSC用アフターラン制御ボックス（ヒューミ付リモコン付属） 結線要領図		
更新日 2018／03／19	部品コード	ウエットマスター株式会社 WETMASTER CO., LTD	
図 番 ASCQSJ00005		訂正回数 0	葉 別 1／1



※ 電源線はファン容量に応じた線材を選定してください。
加湿器本体(WM-VSBタイプ)への配線は付属の接続コードを2本使用し、
(C1, C2, L1, L2, 5, 6, 7, 8)は0.5~0.75mm² をご使用ください。
※ ヒューミディスタットを使用しない場合には、端子台L1-L2間を短絡してください。
※ アース(E)はD種接地工事にて施工してください。

番号	記号	部品名称	仕様
30	FAN	ダクト用ファン	AC100V 客先ご用意
29	SV	給水用電磁弁(VSB)	AC100V
28	RL	ドレンパン高水位異常ランプ(VSB)	赤色
27	K2	異常信号リレー(VSB)	AC100V 2c
26	K1	加湿運転信号リレー(VSB)	AC100V 2c
25	FS	高水位検知用フロートスイッチ(VSB)	上ON
24	TR	トランス(VSB)	200V/100V
23	F1	ヒューズ(VSB)	ガラス管 1A
22	E	アース	D種接地工事
21	BZ	圧電ブザー	(警報発生器確認用)
20	DS3	ディップスイッチ	4P(外部指令信号入力設定 運転信号出力設定)
19	DS2	ディップスイッチ	2P
18	DS1	ディップスイッチ	4P
17	DB1	全波整流器	4A 600V耐圧
16	RY7	運転補助リレー2	AC100V
15	RY6	ファン運転リレー(弱)	AC100V 2c
14	RY5	ファン運転リレー(強)	AC100V 3c
13	RY4	警報信号リレー	DCリレー 1a
12	RY3	運転信号リレー	DCリレー 1a
11	RY2	ファン強弱切換用リレー	DCリレー 1c
10	RY1	ファン運動用リレー	DCリレー 1a
9	SW3	外部指令入力接点	瞬時停止(客先用意)
8	SW2	外部指令入力接点	瞬時or常時入力(客先用意)
7	HS	ヒューミディスタット	客先ご用意
6	TR	SWトランス	基板搭載タイプ、絶縁型
5	F3	ヒューズ	ガラス管 10A
4	F2	ヒューズ	ガラス管 3A
3	F1	ヒューズ	ガラス管 3A
2	SW1	電源スイッチ	波型(基板搭載)
1	VKCU-S	コントロールユニット	マイコン制御

図面名称 NAME ウエットマスター VSB
WM-AFB-VS
VSB 用アフターラン制御ボックス 電気回路図
葉 別 PAGE /
ウエットマスター株式会社
WETMASTER CO., LTD
図 番 DWG. No. MUJ-36B2-01



※ 接点定格

	運転信号（K1）	警報信号（RY4）
抵抗負荷	AC125V 3A DC30V 3A	AC125V 3A DC30V 3A
誘導負荷	AC125V 1.5A DC30V 0.6A	AC125V 1A DC30V 1A

C1 C2
リモコンスイッチ
VKRM-1A

外部指令信号入力

（1）常時入力信号（出荷時設定）の場合
基板VKCU-S
ディップスイッチ DS3 1番ピン OFF
5 6 7 8

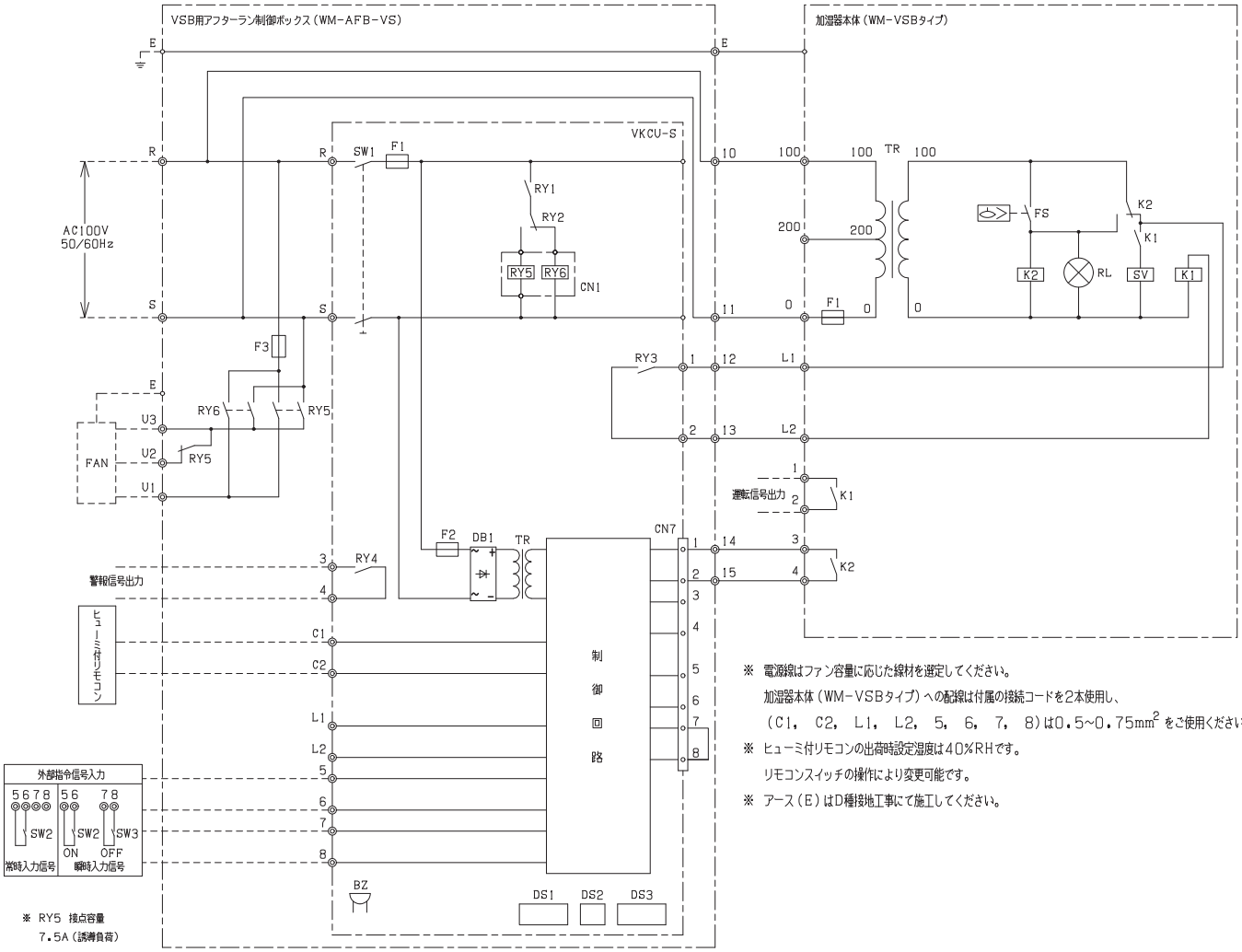
（2）瞬時入力信号の場合
基板VKCU-S
ディップスイッチ DS3 1番ピン ON
※ 3線での配線
5 6 7 8
ON OFF
5 6 7 8
ON COM OFF

※ 通電電圧／電流
DC12V/DC10mA

※ 破線部分は客先ご用意となります。
※ 電源線はファン容量に応じた線材を選定してください。
加湿器本体（WM-VSBタイプ）への配線は付属の接続コードを2本使用し、
（C1, C2, L1, L2, 5, 6, 7, 8）は0.5~0.75mm^{2}をご使用ください。
VSBのL1・L2の短絡線は必ず取外してください。
※ AC100V電源は単独で配線してください。
※ ヒューミディスタット（HS）および外部指令信号入力の渡り線は不要です。
※ リモコン1ケで、本体10台まで同時制御可能です。
※ リモコンスイッチは必ずご使用ください。リモコンスイッチを使用しないと運転できません。

※ ヒューミディスタットを使用しない場合には、アフターラン制御ボックス-1の端子台L1-L2間を短絡してください。
※ 外部指令信号入力に瞬時入力信号を使用する場合は、アフターラン制御ボックス-1のコントロールユニットのディップスイッチ（DS3 1番ピン）の設定を変更してください。
※ 外部指令信号入力のうち瞬時入力信号の場合は、100msec（0.1秒）以上の接点を入力してください。
※ アース（E）はD種接地工事にて施工してください。

図面名称 NAME ウエットマスター VSB
WM-AFB-VS
VSB 用アフターラン制御ボックス 結線要領図
葉 別 PAGE ／
ウエットマスター株式会社
WETMASTER CO., LTD
図 番 DWG. No. MUJ-36B3-03



※ RY5 接点容量
7.5A（誘導負荷）

※ 電源線はファン容量に応じた線材を選定してください。
加湿器本体（WM-VSBタイプ）への配線は付属の接続コードを2本使用し、
（C1, C2, L1, L2, 5, 6, 7, 8）は0.5~0.75mm² をご使用ください。

※ ヒューミ付リモコンの出荷時設定湿度は40%RHです。
リモコンスイッチの操作により変更可能です。

※ アース（E）はD種接地工事にて施工してください。

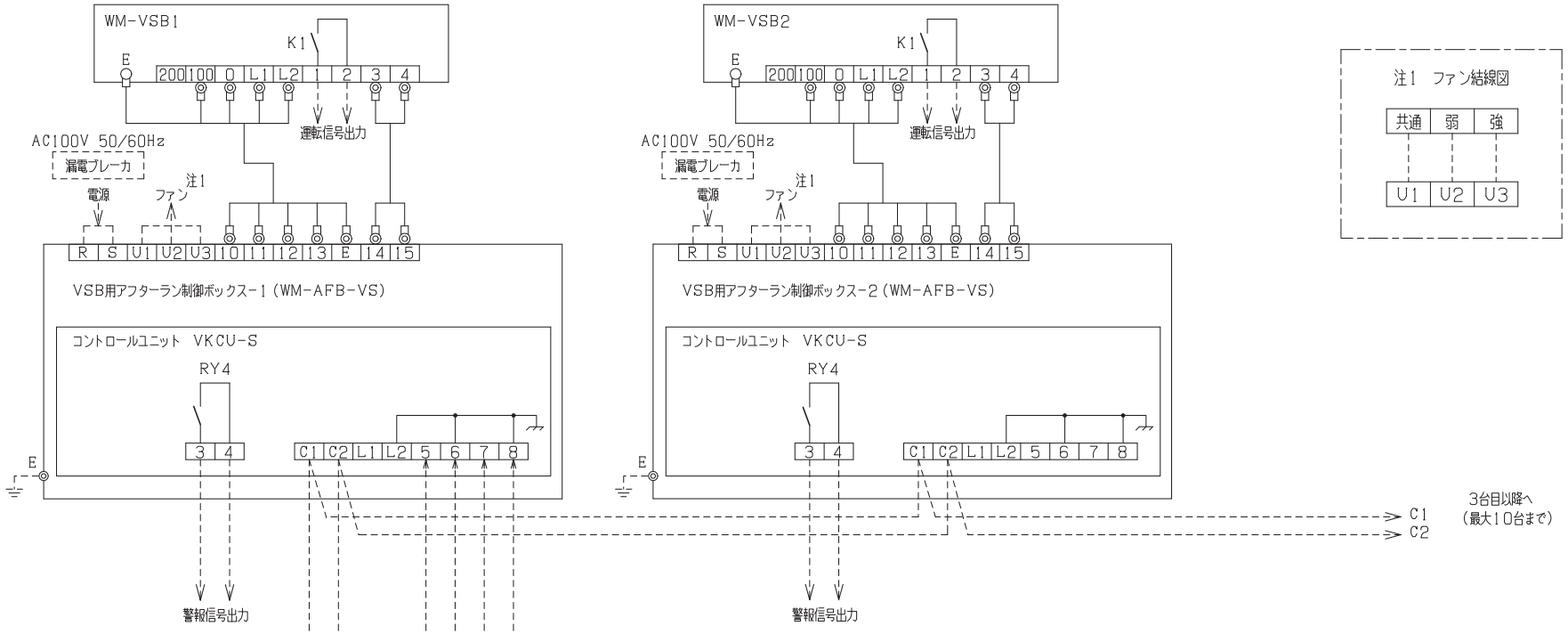
番号	記号	部品名称	仕様
29	FAN	ダクト用ファン	AC100V　客先ご用意
28	SV	給水用電磁弁（VSB）	AC100V
27	RL	ドレンパン高水位異常ランプ（VSB）	赤色
26	K2	異常信号リレー（VSB）	AC100V 2c
25	K1	加湿運転信号リレー（VSB）	AC100V 2c
24	FS	高水位検知用フロートスイッチ（VSB）	上ON
23	TR	トランス（VSB）	200V/100V
22	F1	ヒューズ（VSB）	ガラス管 1A
21	E	アース	D種接地工事
20	BZ	圧電ブザー	（警報発生器確認用）
19	DS3	ディップスイッチ	4P（外部指令信号入力設定 運転信号出力設定）
18	DS2	ディップスイッチ	2P
17	DS1	ディップスイッチ	4P
16	DB1	全波整流器	4A 600V耐圧
15	RY7	運転補助リレー2	AC100V
14	RY6	ファン運転リレー（弱）	AC100V 2c
13	RY5	ファン運転リレー（強）	AC100V 3c
12	RY4	警報信号リレー	DCリレー 1a
11	RY3	運転信号リレー	DCリレー 1a
10	RY2	ファン強弱切換用リレー	DCリレー 1c
9	RY1	ファン運動用リレー	DCリレー 1a
8	SW3	外部指令入力接点	瞬時停止（客先用意）
7	SW2	外部指令入力接点	瞬時or常時入力（客先用意）
6	TR	SWトランス	基板搭載タイプ、絶縁型
5	F3	ヒューズ	ガラス管 10A
4	F2	ヒューズ	ガラス管 3A
3	F1	ヒューズ	ガラス管 3A
2	SW1	電源スイッチ	波型（基板搭載）
1	VKCU-S	コントロールユニット	マイコン制御

図面名称 NAME　ウエットマスター VSB
WM-AFB-VS
VSB 用アフターラン制御ボックス（ヒューミ付リモコン付属）
電気回路図

葉 別 PAGE　／

ウエットマスター株式会社
WETMASTER CO., LTD

図 番 DWG. No.　MUJ-36B1-04



※ 接点定格

	運転信号（K1）	警報信号（RY4）
抵抗負荷	AC125V 3A DC30V 3A	AC125V 3A DC30V 3A
誘導負荷	AC125V 1.5A DC30V 0.6A	AC125V 1A DC30V 1A

C1 C2
ヒューミ付リモコン
WM-HRM101

外部指令信号入力

（1）常時入力信号（出荷時設定）の場合
基板VKCU-S
ディップスイッチ DS3 1番ピン OFF
5 6 7 8

（2）瞬時入力信号の場合
基板VKCU-S
ディップスイッチ DS3 1番ピン ON
※ 3線での配線
5 6 7 8
ON OFF
5 6 7 8
ON COM OFF

※ 通電電圧／電流
DC12V/DC10mA

※ 破線部分は客先ご用意となります。
※ 電源線はファン容量に応じた線材を選定してください。
加湿器本体（WM-VSBタイプ）への配線は付属の接続コードを2本使用し、
（C1, C2, L1, L2, 5, 6, 7, 8）は0.5~0.75mm^2 をご使用ください。
VSBのL1・L2の短絡線は必ず取外してください。
※ AC100V電源は単独で配線してください。
※ 外部指令信号入力の渡り線は不要です。
※ リモコンスイッチ1ヶで、本体10台まで同時制御可能です。
※ リモコンスイッチは必ずご使用ください。リモコンスイッチを使用しないと運転できません。

※ 外部指令信号入力に瞬時入力信号を使用する場合は、アフターラン制御ボックス-1のコントロールユニットのディップスイッチ（DS3 1番ピン）の設定を変更してください。
※ 外部指令信号入力のうち瞬時入力信号の場合は、100msec（0.1秒）以上の接点を入力してください。
※ アース（E）はD種接地工事にて施工してください。

図面名称 NAME ウエットマスター VSB
WM-AFB-VS
VSB 用アフターラン制御ボックス（ヒューミ付リモコン付属）
結線要領図

葉 別 PAGE ／

ウエットマスター株式会社
WETMASTER CO., LTD

図 番 DWG. No. MUJ-36B2-05

3 各種設定

3-1 アドレス設定（リモコンスイッチ初期設定操作）、接続台数確認

●リモコンスイッチと加湿器本体を結線した後、加湿器の運転前にはアドレス設定が必要です。アドレス設定を行わないと加湿器を運転することができません。以下の点を確認してアドレス設定を行ってください。

□リモコンスイッチと加湿器本体間の配線接続（C1、C2）が終了している。
□１つのリモコンスイッチで複数の加湿器本体を制御する場合、各加湿器本体間の渡りの配線接続（C1、C2）が終了している。
□１つのリモコンスイッチで複数の加湿器本体を制御する場合、加湿器本体は 10 台以下であること。

3-1-1 アドレス設定方法

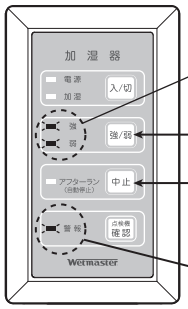
①１つのリモコンスイッチに接続しているすべての加湿器電源を供給します（加湿器元電源の漏電ブレーカをＯＮ）。

・電源供給の際、全ての表示灯が点滅（約５秒間）します。その後、警報表示灯が点滅し続けますが、アドレス設定を行うと消灯します（図 -8 ①）。

②リモコンスイッチ上の強 / 弱ボタンとアフターラン中止ボタンを同時に３秒以上長押しする（図 -8 ②）。

・以上の操作を行うとアドレス設定が自動で開始され、リモコンスイッチ上の強表示灯・弱表示灯が 0.5 秒間隔で同時に点滅し、約 1 分後に消灯します。その後、加湿表示灯が加湿器本体接続台数分の回数を 0.5 秒間隔で点滅し、３回繰り返した後消灯し、アドレス設定は終了となります（所要時間最大２分）。

図 -8 アドレス設定方法



オートアドレス設定中は同時点滅

② 強/弱ボタンと
アフターラン中止ボタンを
同時に３秒以上長押しする

① 初めての電源供給時に点滅
アドレス設定実施で消灯

※イラストは標準リモコンスイッチで表していますが、
ヒューミ付リモコンの場合も同様です。

表３ アドレス設定時のリモコンスイッチ表示

表示灯	電源ON時（約５秒間）	アドレス設定			
		設定前	設定中	設定終了時	終了後
電　源	☼	—	—	—	—
加　湿	☼	—	—	☼ ※	—
強	☼	—	☼	—	—
弱	☼	—	☼	—	—
アフターラン	☼	—	—	—	—
警　報	☼	☼	—	—	—

☼ は点滅を示します

※アドレス設定終了時は接続台数分の点滅を３回繰り返します。

（例）加湿器４台接続の場合
加湿表示灯点滅４回を３回繰り返す

●オートアドレス設定中は、リモコンスイッチ上の何れのボタンを押しても反応しません。

●１台もアドレス設定ができなかった場合は、警報表示灯が点滅します。

●加湿表示灯が接続台数分の回数を点滅しなかった場合や警報表示灯が点滅した場合、正しくアドレス設定ができていません。P.23図 -10 を参照し、アフターラン制御ボックスコントロールユニットの LED1（緑）が「点滅していない」、または「早い点滅（0.1 秒サイクル）」となっていないかを確認してください。「点滅していない」場合には電源を確認してください。「早い点滅（0.1 秒サイクル）」の場合にはリモコンスイッチ配線および本体間の渡りの信号配線（C1、C2）を確認し、再度アドレス設定を行ってください（再設定を行う場合、上記②からの操作となります）。

3-1-2 加湿器本体接続台数の確認方法

●下記方法でアドレス設定終了時にリモコンスイッチ１台に加湿器本体が何台接続されているかを確認できます。

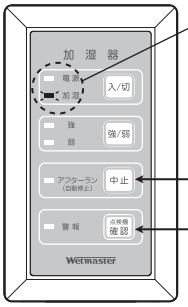
①リモコンスイッチの表示灯が全て消灯していることを確認する。

②リモコンスイッチ上のアフターラン中止ボタンと点検機確認ボタンを同時に３秒以上長押しする（図 -9 ②）。

以上で接続台数確認を開始し、確認終了後自動的に終了します。

●接続台数の表示は表３のアドレス設定終了時と同じです。加湿表示灯が加湿器本体の接続台数分の回数を 0.5 秒間隔で点滅し、３回繰り返した後に消灯します。

図 -9 接続台数確認方法



接続台数分の回数点滅（3回繰り返し）
（例）2台接続の場合
2回点滅を3回繰り返し
（例）4台接続の場合
4回点滅を3回繰り返し

② アフターラン中止ボタンと
点検機確認ボタンを
同時に３秒以上長押しする

※イラストは標準リモコンスイッチで表していますが、
ヒューミ付リモコンの場合も同様です。

3-2 外部機器と連動運転を行う場合の設定

当項目は、ヒューミ付リモコンを使用する場合のみ該当します。

●以下①のヒューミ付リモコン設定と、②の配線接続を行ってください。

① P.26「b 外部機器と連動運転を行うための設定」を参照し、「外部機器と連動する場合」に設定して下さい。

②外部機器の運転出力は加湿器本体の端子台 L1、L2（無電圧接点入力）に接続してください。

※無電圧接点には、最少適用負荷 10mA 以下の接点をご使用ください。また、接点検出用電圧を印加していますので別電源から電圧を印加しないで下さい。

※外部機器が OFF の時にリモコンスイッチの操作と、外部指令入力による運転が無効となり、加湿器単独の運転を制限することができます。

表 4 ヒューミ付リモコンにより連動運転を行う場合の設定方法

①ヒューミ付リモコンの設定	②信号の種類と配線接続	備　考
「外部機器と連動する場合」に設定 （P.26「b 外部機器と連動運転を行うための設定」参照）	L1 L2 通電電圧・電流 DC12V・10mA （無電圧接点入力）	運転時に ON、停止時にOFF となる接点信号を入力してください。

3-3 運転信号出力および警報信号出力（外部信号出力）を使用する場合

●加湿器本体を複数台制御する場合、警報信号は各アフターラン制御ボックスの端子 3、4 から個別に出力されます。運転信号は加湿器本体に接続してください。

●運転信号出力は加湿運転時に出力し、給水電磁弁と同期します。

●警報信号は安全保護機能が作動した時に出力されます。

安全保護機能	ドレンパン高水位検知（運転停止 / 警報表示灯点灯）

運転信号出力および警報信号出力接点定格

無電圧接点出力（a 接点）

	運転信号出力	警報信号出力
抵抗負荷	AC125V　3A DC30V　3A	AC125V　3A DC30V　3A
誘導負荷	AC125V　1.5A DC30V　0.6A	AC125V　1A DC30V　1A

3-4 外部指令信号入力による遠方発停（外部指令制御）を使用する場合のディップスイッチ設定

⚠ 警告	●ディップスイッチ切替作業は、必ず漏電ブレーカを OFF にし、電源供給を停止してから行ってください。 通電したままの作業は感電の原因になります。

●外部指令信号入力による遠方発停（外部指令制御）が可能です（この場合においてもリモコンスイッチの取付が必要となります）。

●加湿器本体を複数台制御する場合でも端子 5、6（5、6、7、8）への接続は「アフターラン制御ボックス -1」のみで全数の運転制御ができます。

●外部指令信号入力は「常時入力信号」と「瞬時入力信号」に対応しています。初期設定は常時入力信号の状態に設定されていますので、瞬時入力信号を使用する場合、表 5 の配線接続と、P.23 図 -10 を参照してアフターラン制御ボックスコントロールユニットのディップスイッチ（DS3 1 番ピン）を切り替えてご使用ください。

●ディップスイッチ切替作業は、必ず漏電ブレーカを OFF にし、電源供給を停止してから行ってください。通電したままディップスイッチ切替作業を行うと、設定変更が正しく反映されません。

●外部指令制御を使用する場合、任意の発停は「リモコンスイッチ操作による発停」と「外部指令信号入力による発停」により行われ、「後押し優先」となります。

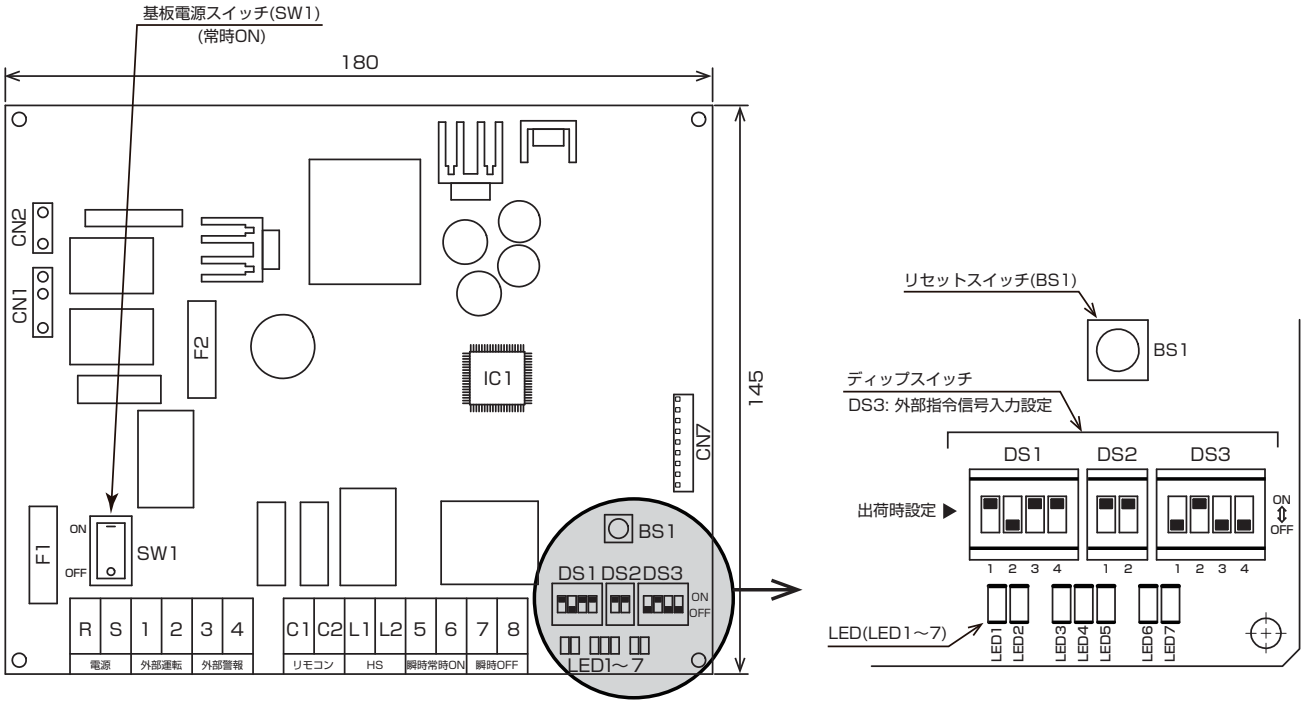
●瞬時入力信号を使用する場合、表 5 の配線接続と、P.23 図 -10 を参照して現場配線数に合わせて接続してください。

表 5 外部指令信号入力による遠方発停（外部指令制御）を使用する場合のディップスイッチ設定

信号の種類と配線接続			ディップスイッチ設定	備　考
常時入力信号 （初期設定）	5 6 7 8	通電電圧・電流 DC12V・10mA	DS3 ON OFF 1 2 3 4 ※DS3 の 2 番ピンは必ず、ON のままにしてください。	運転時に ON、停止時に OFF となる接点信号を入力してください。
瞬時入力信号	5 6 7 8 ON OFF 5 6 7 8 ON COM OFF	通電電圧・電流 DC12V・10mA	DS3 ON OFF 1 2 3 4 ※DS3 の 2 番ピンは必ず、ON のままにしてください。	瞬時入力信号は 100msec（0.1 秒）以上の a 接点の信号を入力してください。

図 -10 アフターラン制御ボックスコントロールユニット外観略図と LED 表示内容

⚠ 警告	●ディップスイッチ切替作業は、必ず加湿器元電源の漏電ブレーカを OFF にし、電源供給を停止してから行ってください。通電したままの作業は感電の原因になります。



LED番号（色）	LED点灯表示内容
LED1（緑）	リモコン通信時にゆっくり点滅（0.5秒サイクル）、通信不通時は早い点滅（0.1秒サイクル）
LED2（黄）	未使用
LED3（赤）	加湿器本体ドレンパン高水位検知時に点灯 〔点灯解除の方法は、漏電ブレーカ OFF → ON の後、リセットスイッチ（BS1）を押す〕
LED4（緑）	未使用
LED5（黄）	未使用
LED6（赤）	未使用
LED7（緑）	未使用

3-5 ヒューミ付リモコンによる各種設定

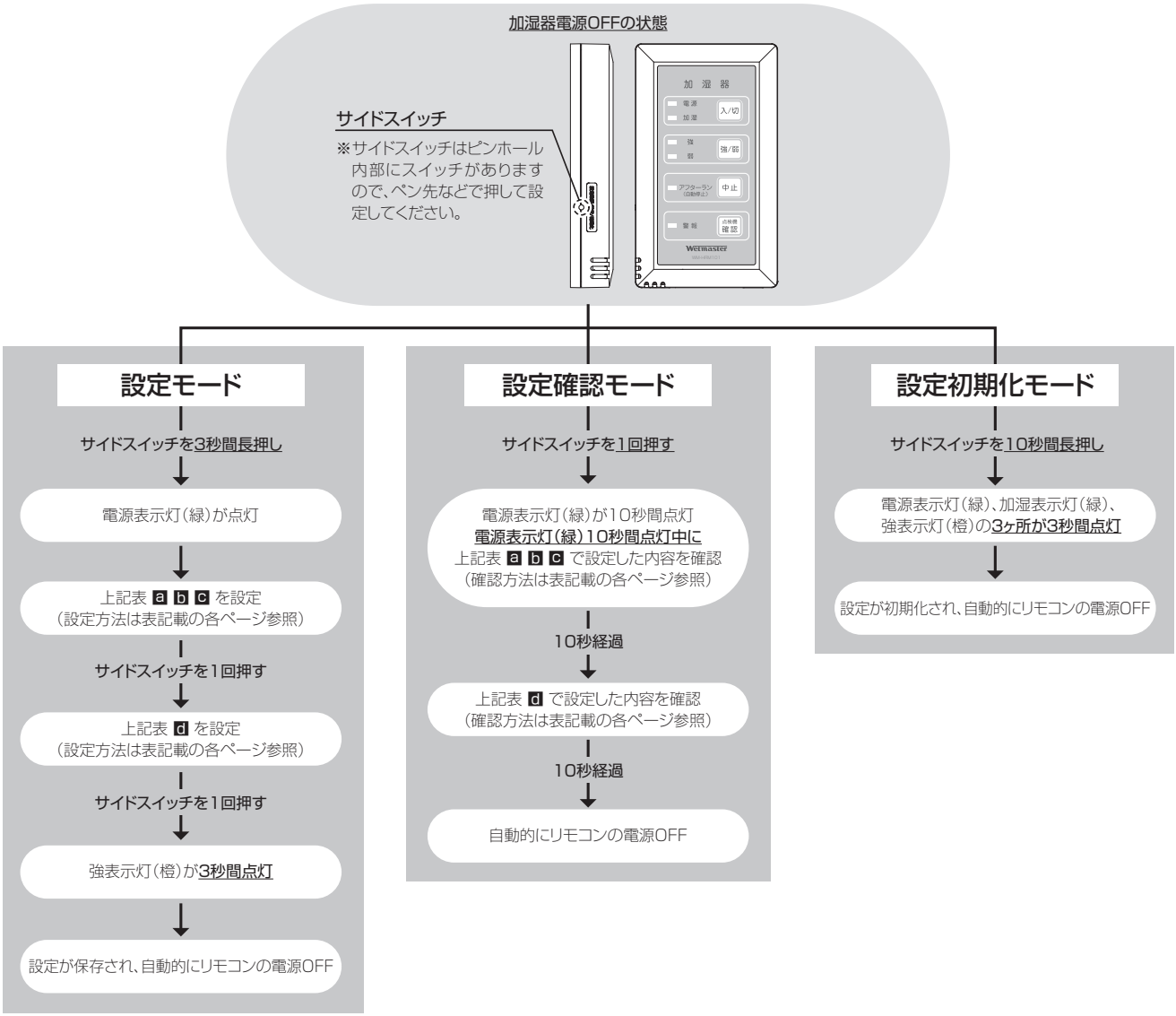
3-5-1 各モードについて

●ヒューミ付リモコンでは表 6 のように 3 つのモードがあり、各モードによって操作方法が異なります。
下記表から各項目のページを参照し、設定・確認を行ってください。

表 6 各モードの概要

モード	概要	設定方法詳細ページ
設定モード	a 使用するヒューミディスタットの選択	P.25
	b 外部機器と連動運転を行うための設定	P.26
	c 湿度検知の感度変更	P.27
	d ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合の設定湿度の変更	P.28 ～ 29
設定確認モード	設定モード a で設定した内容を確認	P.30 ～ 31
	設定モード b で設定した内容を確認	
	設定モード c で設定した内容を確認	
	設定モード d で設定した内容を確認	
設定初期化モード	一括で設定内容を初期化（出荷時設定の内容へ戻す）	P.32

各モードにおける設定の流れ

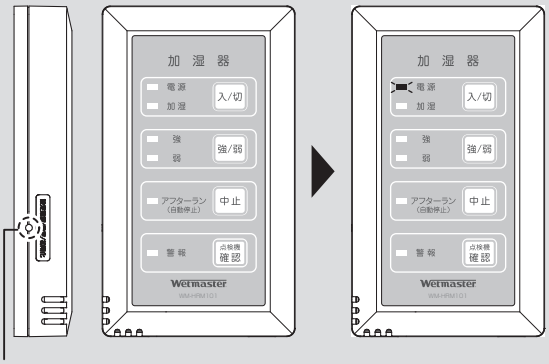


3-5-2 設定モード

a 使用するヒューミディスタットの選択

●初期設定は、ヒューミ付リモコンのヒューミディスタットを使用して湿度検知する設定になっています。客先ご用意のヒューミディスタットで湿度検知する場合に設定変更が必要となります。

①

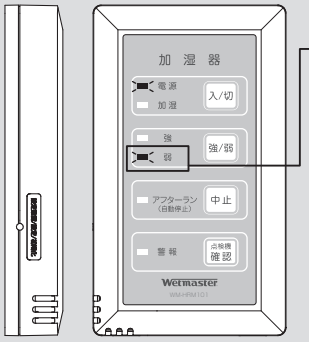


※サイドスイッチはピンホール内部にスイッチがありますので、ペン先などで押して設定してください。

①-1 電源表示灯が消灯している状態（加湿器電源 OFF）で、サイドスイッチを 3 秒間長押しします。

①-2 電源表示灯（緑）が点灯します。

②



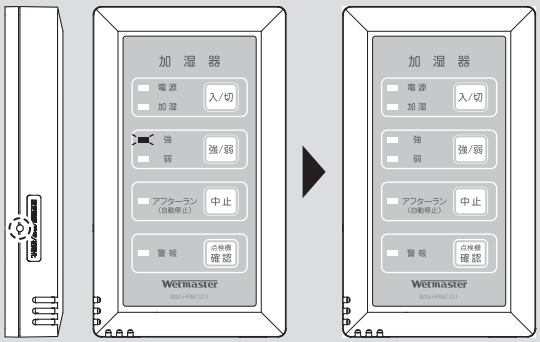
例）客先ご用意のヒューミディスタットで湿度検知する

②下記表を参照し、使用するヒューミディスタットに応じて 弱表示灯 を点灯または消灯させてください。弱表示灯の点灯 / 消灯は、強 / 弱ボタンを押すことで切り替えができます。

客先ご用意のヒューミディスタットで湿度検知する場合	弱表示灯を 点灯
リモコンスイッチに内蔵された ヒューミディスタットで湿度検知する場合（初期設定）	弱表示灯を 消灯

※弱表示灯に加え、アフターラン表示灯や警報表示灯が点灯する場合は、初期設定から何らかの設定変更がされています。現状の各設定内容を確認する場合は、P.30「3-5-3 設定確認モード」を参照してください。

③



③-1 サイドスイッチを 2 回押します。

③-2 強表示灯（橙）が 3 秒間点灯します。

③-3 電源が OFF となり、設定保存が完了します。

※設定した内容を改めて確認する場合は、P.30「3-5-3 設定確認モード」で確認できます。

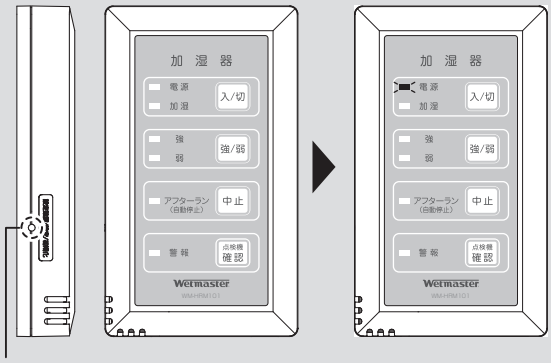
b 外部機器と連動運転を行うための設定

●リモコンスイッチに内蔵されたヒューミディスタットで湿度検知する場合、加湿器本体の端子（L1、L2）を空調機などの外部機器との連動運転端子として使用することができます。出荷時の初期設定は「外部機器と連動運転しない」設定となっているため、外部機器と連動運転をする場合に設定変更が必要となります。

●配線接続については P.21「3-2 外部機器と連動運転を行う場合の設定」をご参照ください。

※外部機器がオフの時にリモコンの操作と外部指令入力による運転が無効となり、加湿器単独の運転が制限されます。この状態で運転ボタンを押した場合、電源表示灯と加湿表示灯が３秒間交互に点灯します。ただし外部指令入力による運転指示の場合には表示灯は交互点灯しません。

①



サイドスイッチ

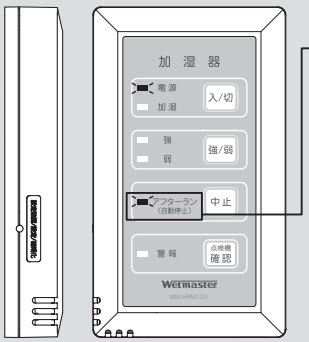
※サイドスイッチはピンホール内部にスイッチがありますので、ペン先などで押して設定してください。

①-1 外部機器の接点をオフにします。

①-2 電源表示灯が消灯している状態（加湿器電源 OFF）で、サイドスイッチを３秒間長押しします。

①-3 電源表示灯（緑）が点灯します。

②



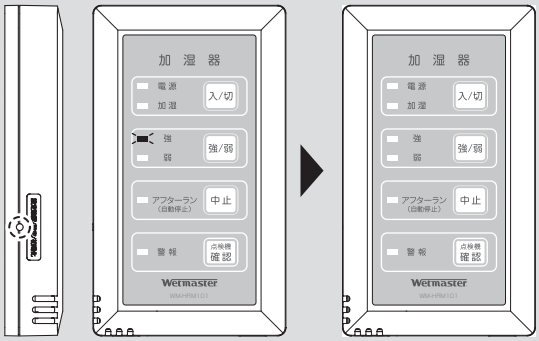
例）加湿器と外部機器を連動運転する

②加湿器と外部機器を連動する場合は下記表を参照し、アフターラン表示灯 を点灯させてください。アフターラン表示灯の点灯 / 消灯は、アフターラン中止ボタンを押すことで切り替えができます。

外部機器と連動運転する場合	アフターラン表示灯を **点灯**
外部機器と連動運転しない場合（初期設定）	アフターラン表示灯を **消灯**

※アフターラン表示灯に加え、弱表示灯や警報表示灯が点灯する場合は、出荷時設定から何らかの設定変更がされています。各設定内容を確認する場合は、P.30「3-5-3 設定確認モード」を参照してください。

③



③-1 サイドスイッチを 2 回押します。

③-2 強表示灯（橙）が 3 秒間点灯します。

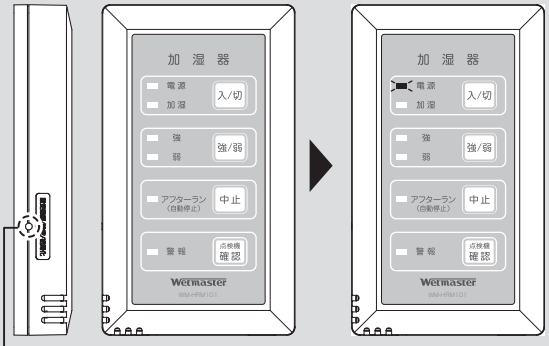
③-3 電源が OFF となり、設定保存が完了します。

※設定した内容を改めて確認する場合は、P.30「3-5-3 設定確認モード」で確認できます。

C 湿度検知の感度変更

●ヒューミディスタットの湿度検知の感度を「高」・「低」の 2 種類から選択することができます。出荷時の初期設定は「高」で、通常は設定変更なしでご使用いただけます。

①

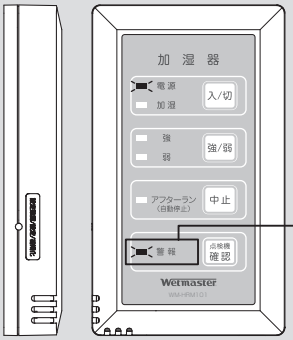


※サイドスイッチはピンホール内部にスイッチがありますので、ペン先などで押して設定してください。

①-1 電源表示灯が消灯している状態（加湿器電源 OFF）で、サイドスイッチを 3 秒間長押しします。

①-2 電源表示灯（緑）が点灯します。

②



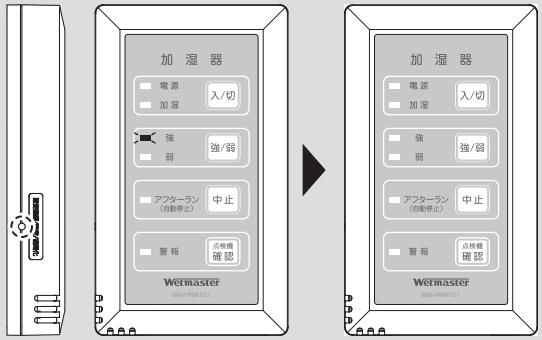
例）感度を「低」へ、変更する

②湿度検知の感度を変更する場合は下記表を参照し、警報表示灯 を点灯または消灯させてください。警報表示灯の点灯 / 消灯は、点灯機確認ボタンを押すことで切り替えができます。

湿度検知の感度「低」	警報表示灯を 点灯
湿度検知の感度「高」（初期設定）	警報表示灯を 消灯

※警報表示灯に加え、弱表示灯やアフターラン表示灯が点灯する場合は、出荷時設定から何らかの設定変更がされています。各設定内容を確認する場合は、P.30「3-5-3 設定確認モード」を参照してください。

③



③-1 サイドスイッチを 2 回押します。

③-2 強表示灯（橙）が 3 秒間点灯します。

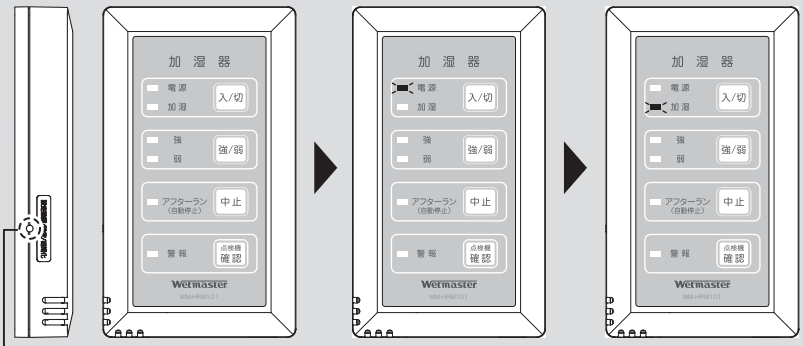
③-3 電源が OFF となり、設定保存が完了します。

※設定した内容を改めて確認する場合は、P.30「3-5-3 設定確認モード」で確認できます。

d ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合の設定湿度の変更

●35%RH ～ 70%RH の範囲で 5%単位で設定が可能です。また、出荷時の初期設定は 40%RH です。設定湿度を変更する場合は、以下の手順で行ってください。

①



※サイドスイッチはピンホール内部にスイッチがありますので、ペン先などで押して設定してください。

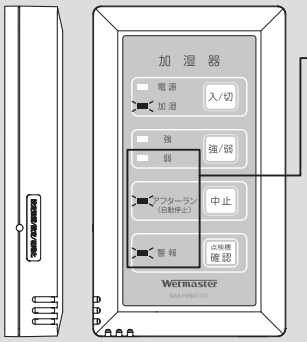
① -1 電源表示灯が消灯している状態（加湿器電源 OFF）で、サイドスイッチを 3 秒間長押しします。

① -2 電源表示灯（緑）が点灯します。

① -3 サイドスイッチを 1 回押します。

① -4 電源表示灯（緑）が消灯し、加湿表示灯（緑）が点灯する。

②

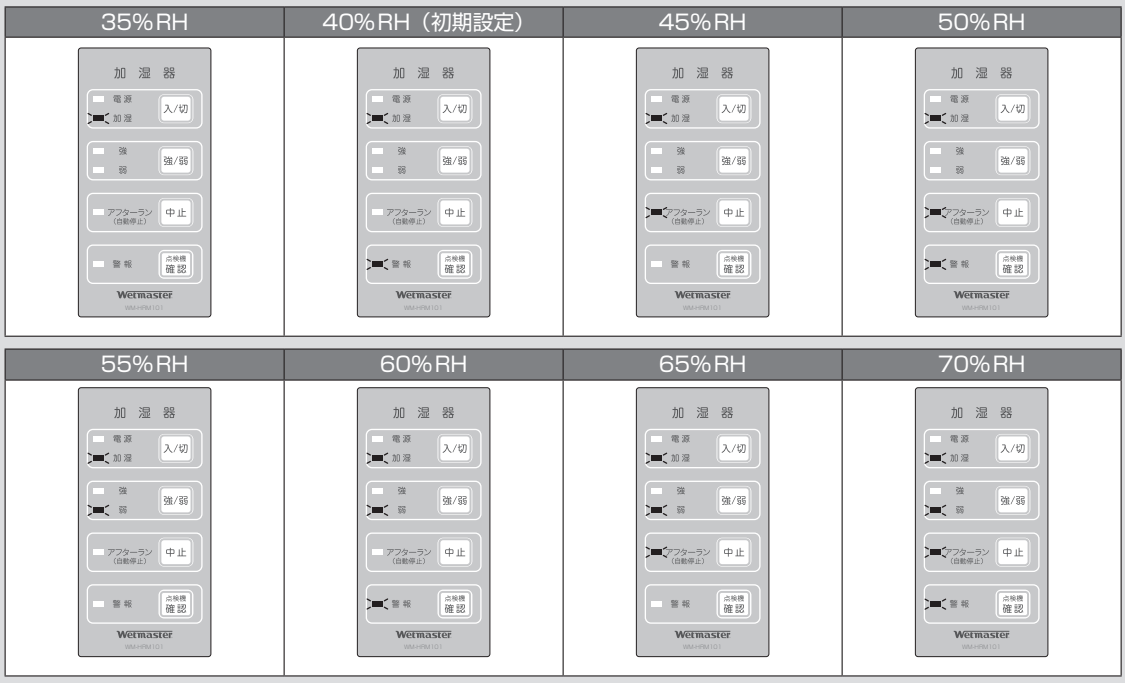


例）設定湿度 50%RH

②湿度設定は、
弱表示灯・アフターラン表示灯・警報表示灯 の点灯 / 消灯の組み合わせによって設定します。
以下の組み合わせ一覧から希望設定湿度の点灯パターンを参照し、希望湿度を設定してください。各表示灯の点灯 / 消灯は、下記の各ボタンを押すことで切り替えができます。

・弱表示灯⇒強 / 弱ボタン
・アフターラン表示灯⇒アフターラン中止ボタン
・警報表示灯⇒点検機確認ボタン

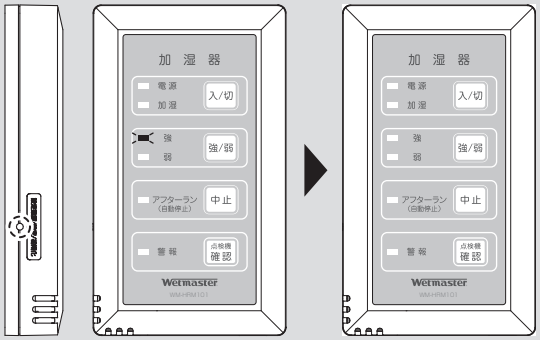
設定湿度の表示灯組み合わせ一覧　【▬：点灯、▭：消灯を示します】



（次ページへ続く）

（前ページからの続き）

③



③-1 サイドスイッチを 1 回押します。

③-2 強表示灯（橙）が 3 秒間点灯します。

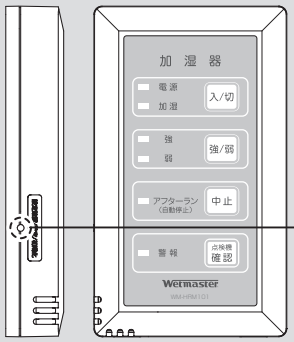
③-3 電源が OFF となり、設定保存が完了します。

※設定した内容を改めて確認する場合は、P.30「3-5-3 設定確認モード」で確認できます。

3-5-3 設定確認モード

● P.25 ～ 29 の設定モード a・b・c・d の現状の設定状態を確認できます。

①

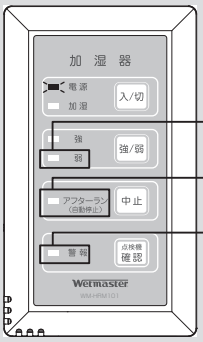


①電源表示灯が消灯している状態（加湿器電源 OFF）で、
サイドスイッチを 1 回押します。

サイドスイッチ

※サイドスイッチはピンホール内部にスイッチがありますので、
ペン先などで押して設定してください。

②



②電源表示灯（緑）が 10 秒間点灯します。この 10 秒間の間に、各表示灯の点灯または消灯から、

a 使用するヒューミディスタットの確認

b 外部機器と連動運転を行うかどうかの確認

c 湿度検知の感度

以上 3 つの現状の設定状態を確認します。

下記表を参照し、各設定状態を確認してください。

a 湿度感知するヒューミディスタットの確認	
弱表示灯が点灯している場合	客先ご用意のヒューミディスタット
弱表示灯が消灯している場合	リモコンスイッチに内蔵されたヒューミディスタット

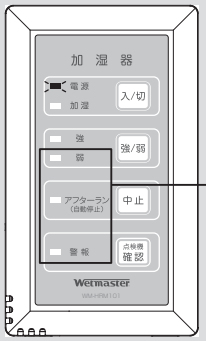
b 外部機器と連動運転をするかどうかの確認	
アフターラン表示灯が点灯している場合	外部機器と連動運転する
アフターラン表示灯が消灯している場合	外部機器と連動運転しない

c ヒューミディスタット感度の確認	
警報表示灯が点灯している場合	湿度検知の感度「低」
警報表示灯が消灯している場合	湿度検知の感度「高」

10 秒経過後（次ページへ続く）

10 秒経過後（前ページからの続き）

③



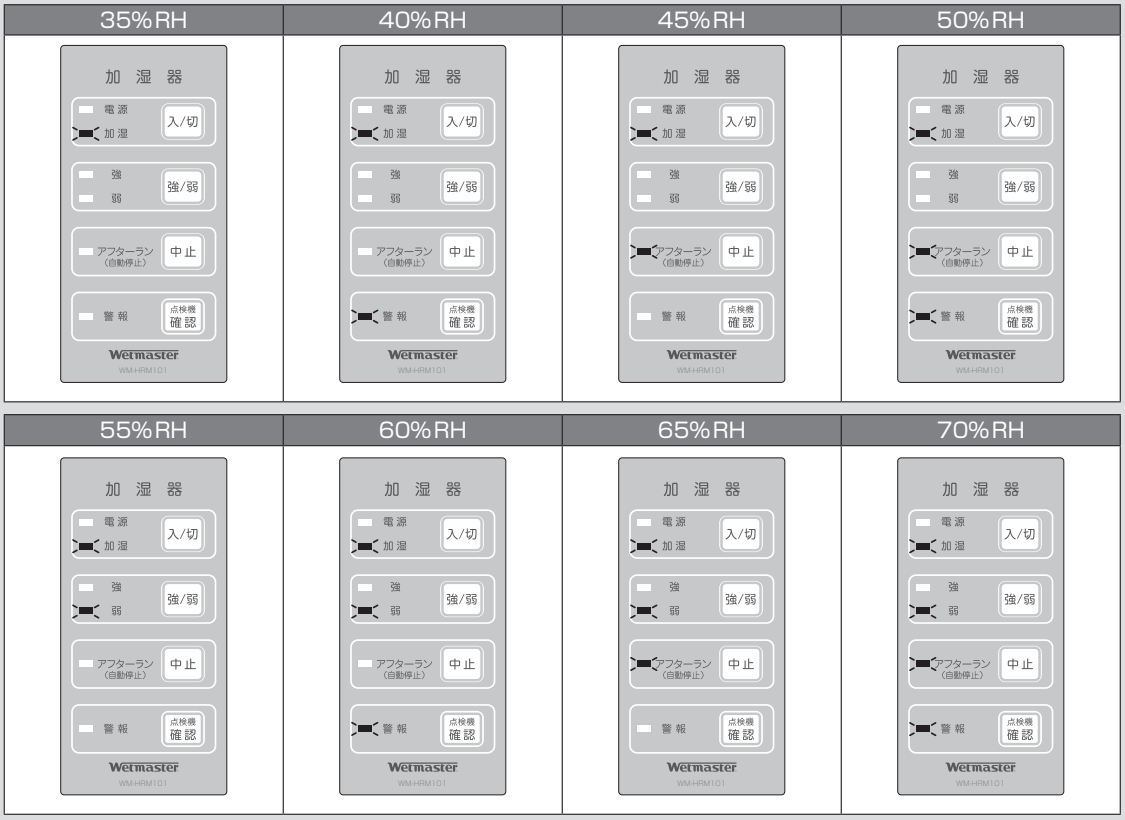
③電源表示灯（緑）が消灯し、加湿表示灯（緑）が 10 秒間点灯します。この 10 秒間の間に、

d ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合の設定湿度

の現状の設定状態を確認します。設定湿度は、弱表示灯、アフターラン表示灯、警報表示灯の点灯 / 消灯の組み合わせによって確認できます。以下の組み合わせ一覧から現状の点灯パターンを参照し、設定湿度を確認してください。

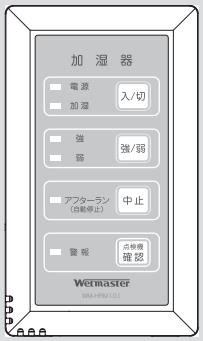
設定湿度の表示灯組み合わせ一覧

【▬：点灯、▭：消灯を示します】



10 秒経過後

④

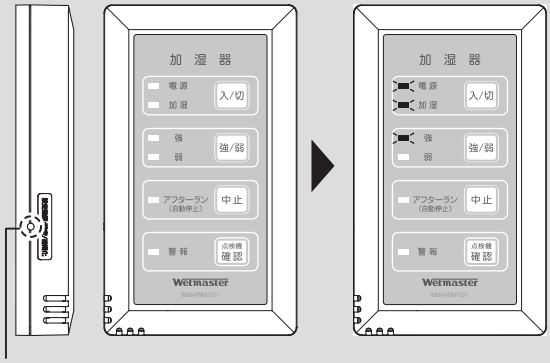


④加湿表示灯が消灯し、電源が OFF の状態へ戻ります。

3-5-4 設定初期化モード

●ヒューミ付リモコンで設定した内容を一括で初期化（出荷時の初期設定の内容へ戻）します。

①



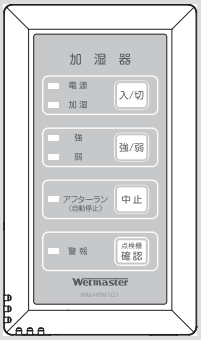
サイドスイッチ

※サイドスイッチはピンホール内部にスイッチがありますので、
ペン先などで押して設定してください。

①-1 電源表示灯が消灯している状態（加湿器電源OFF）で、サイドスイッチを 10 秒間長押しします。

①-2 電源表示灯（緑）、加湿表示灯（緑）、強表示灯（橙）が同時に 3 秒間点灯します。

②



②電源が OFF の状態へ戻ります。以上で初期化は完了です。
各項目の初期設定は以下表をご参照ください。

a 使用するヒューミディスタットの選択	リモコンスイッチに内蔵されたヒューミディスタット
b 外部機器と連動運転を行うための設定	連動運転しない
c 湿度検知の感度変更	高
d ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合の設定湿度の変更	40% RH

4 試運転

施工後は、以下表に該当する項目の手順で試運転を実施し、不都合な点があれば必ず修正してください。

湿度検知するヒューミディスタット	参照ページ
客先ご用意のヒューミディスタット またはヒューミディスタットを使用しない	P.33 ～ 34「4-1 客先ご用意のヒューミディスタットで湿度検知する場合、 またはヒューミディスタットを使用しない場合」
ヒューミ付リモコンに内蔵された ヒューミディスタット	P.34 ～ 35「4-2 ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合」

4-1 客先ご用意のヒューミディスタットで湿度検知する場合、またはヒューミディスタットを使用しない場合

（1）試運転準備

●試運転前には下記の諸点を必ず確認し、不都合な点があれば必ず修正してください。

□加湿器本体が水平※に取り付けられていること（水準器をご使用ください）
　※ VSC タイプの場合は、本体が必ず水平もしくは排水口（点検扉）側が 1° 以内の傾斜となるように取り付けてください
□天井面点検口の位置が適正であること（配管部などの保守作業に支障がないこと）
□給水配管のリングジョイントが接続され、軟銅管の折れやつぶれのないこと
□排水ホースはホースバンドで接続され、排水配管は 1/100 以上の先下がり勾配が確保され、流れの障害がないこと
□各電気配線が正しく接続・固定されていること
□アフターラン制御ボックスコントロールユニットのディップスイッチが正しい位置に設定されていること（関連頁 P.22 ～ 23）
□給水配管のフラッシングが十分に実施されていること（必要に応じてフラッシングを実施）

●試運転開始にあたっては、下記の準備作業を行ってください。

□給水サービス弁を開ける
□ヒューミディスタットを使用する場合は、設定湿度を最大にする
□加湿器元電源の漏電ブレーカを ON にして電源を供給する
□リモコンスイッチの警報表示灯が点滅していないことを確認する※
　※アドレス設定を行っていない場合、警報表示灯が点滅します。この場合、P.20「3-1 アドレス設定（リモコンスイッチ初期設定操作）、接続台数確認」を参照し、アドレス設定を行ってください。アドレス設定を行わない場合、加湿器を運転することはできません。

（2）試運転手順

●準備ができたら下記の手順で試運転チェックを行ってください。

①リモコンスイッチの運転ボタンを押し、電源表示灯・加湿表示灯・強表示灯が同時に点灯し、ファンが運転を開始することを確認する
②そのまま 30 分間運転を継続し、本体および配管各部からの漏水のないこと、リモコンスイッチの警報表示灯の点灯、警報信号出力がないことを確認する※
　※ VSC タイプの場合、本項目のチェックによりドレン排水用ポンプの正常動作が確認されます
③強 / 弱ボタンを押して弱運転に切り替え、ファンの送風音が弱くなることを確認する
④ヒューミディスタットを使用する場合は、設定目盛りを動かして接点を ON/OFF させ、加湿表示灯とアフターラン表示灯が交互に点灯 / 消灯することを確認する
⑤リモコンスイッチの運転ボタンを押して加湿運転を終了させ、アフターラン表示灯のみが点灯することを確認する（アフターランは約 1 時間後に自動的に終了します）

（3）試運転後の作業

●試運転チェックが終了したら、下記の作業を行ってください。

①加湿器元電源の漏電ブレーカを OFF にし、電源を切る
②ヒューミディスタットを使用する場合は、設定湿度を合わせる
③給水サービス弁を閉める
④給水ストレーナの掃除を行う（加湿器本体 VSC タイプまたは VSB タイプの取扱説明書参照）

（4）最終点検

●安全のため、最終点検をお願いします。不都合な点があれば必ず修正してください。

□加湿器本体は水平※ですか？
　※ VSC タイプの場合は、本体が必ず水平もしくは排水口（点検扉）側が 1°以内の傾斜となるように取り付けてください
□給水配管からの漏水はありませんか？
□給水サービス弁は閉まっていますか？
□排水配管からの漏水はありませんか？
□排水配管の先下り勾配は確保されていますか？
□各電気配線は正しく接続・固定されていますか？
□加湿器元電源の漏電ブレーカは OFF になっていますか？
□ヒューミディスタットを使用する場合は、希望湿度に設定されていますか？

4-2 ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合

（1）試運転準備

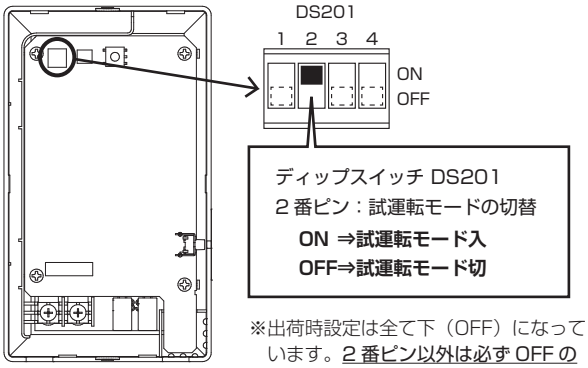
●試運転前には下記の諸点を必ず確認し、不都合な点があれば必ず修正してください。

□加湿器本体が水平※にしっかりと取り付けられていること（水準器をご使用ください）
　※ VSC タイプの場合は、本体が必ず水平もしくは排水口（点検扉）側が 1°以内の傾斜となるように取り付けてください
□天井面点検口の位置が適正であること（配管部などの保守作業に支障がないこと）
□給水配管のリングジョイントが確実に接続され、軟銅管の折れやつぶれのないこと
□排水ホースはホースバンドで確実に接続され、排水配管は 1/100 以上の先下がり勾配が確保され、流れの障害がないこと
□各電気配線が正しく接続・固定されていること
□アフターラン制御ボックスコントロールユニットのディップスイッチが正しい位置に設定されていること（関連頁 P.22 ～ 23）
□給水配管のフラッシングが十分に実施されていること（必要に応じてフラッシングを実施）

●試運転開始にあたっては、下記の準備作業を行ってください。

□加湿器元電源の漏電ブレーカを ON にする
□給水サービス弁を開ける
□リモコンスイッチケースを開け、上ケース内ユニットのディップスイッチ DS201（2 番ピン）を ON にし、試運転モード※を「入」にする（図 -11）
　2 番ピン以外は必ず OFF のままとしてください
　※試運転モードとは、リモコンスイッチに内蔵されたヒューミディスタットを無効にし、リモコンスイッチのボタン操作により加湿器の運転 / 停止を可能にするモードです。
□試運転モードへの変更後はリモコンスイッチケースを元通りに閉める
□リモコンスイッチの警報表示灯が点滅していないことを確認する※
　※アドレス設定を行っていない場合、警報表示灯が点滅します。この場合、P.20「3-1 アドレス設定（リモコンスイッチ初期設定操作）、接続台数確認」を参照し、アドレス設定を行ってください。アドレス設定を行わない場合、加湿器を運転することはできません。

図 -11 ヒューミ付リモコン 上ケース内ユニット外観略図



※出荷時設定は全て下（OFF）になっています。2 番ピン以外は必ず OFF のままとしてください。

（2）試運転手順

●準備ができたら下記の手順で試運転チェックを行い、加湿器が正常に動作することを確認してください。

①リモコンスイッチの運転ボタンを押し、電源表示灯・加湿表示灯・強表示灯が同時に点灯し、ファンが運転を開始することを確認する
②そのまま 30 分間運転を継続し、本体および配管各部からの漏水のないこと、リモコンスイッチの警報表示灯の点灯、警報信号出力がないことを確認する※
※ VSC タイプの場合、本項目のチェックによりドレン排水用ポンプの正常動作が確認されます
③強 / 弱ボタンを押して弱運転に切り替え、ファンの送風音が弱くなることを確認する
④リモコンスイッチの運転ボタンを押して加湿運転を終了させ、アフターラン表示灯のみが点灯することを確認する（アフターランは約 1 時間後に自動的に終了します）

（3）試運転後の作業

●試運転チェックが終了したら、下記の作業を行ってください。

①加湿器元電源の漏電ブレーカを OFF にし、電源を切る
②リモコンスイッチケースを開け、上ケース内ユニットのディップスイッチ DS201（2 番ピン）を OFF にし、試運転モードを「切」にする（P.34 図 -11）
③リモコンスイッチケースを元通りに閉める
④給水サービス弁を閉める
⑤給水ストレーナの掃除を行う（加湿器本体 VSC タイプまたは VSB タイプの取扱説明書参照）

（4）最終点検

●安全のため、最終点検をお願いします。不都合な点があれば必ず修正してください。

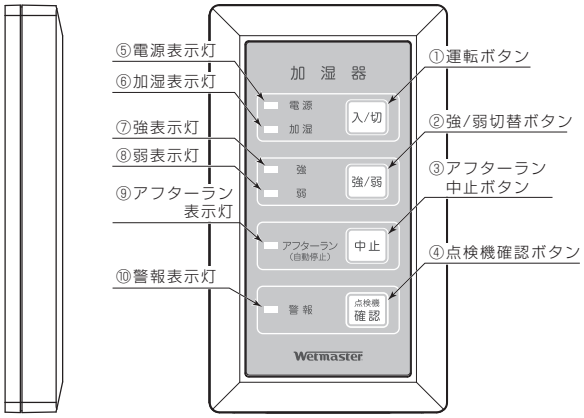
□加湿器本体は水平※ですか？
※ VSC タイプの場合は、本体が必ず水平もしくは排水口（点検扉）側が 1°以内の傾斜となるように取り付けてください
□給水配管からの漏水はありませんか？
□給水サービス弁は閉まっていますか？
□排水配管からの漏水はありませんか？
□排水配管の先下り勾配は確保されていますか？
□各電気配線は正しく接続・固定されていますか？
□リモコンスイッチの上ケース内ユニットのディップスイッチ（P.34 図 -11）は全て OFF になっていますか？
□リモコンスイッチケースは閉まっていますか？
□加湿器元電源の漏電ブレーカは OFF になっていますか？
□ヒューミディスタットは希望湿度に設定されていますか？

5 運転動作

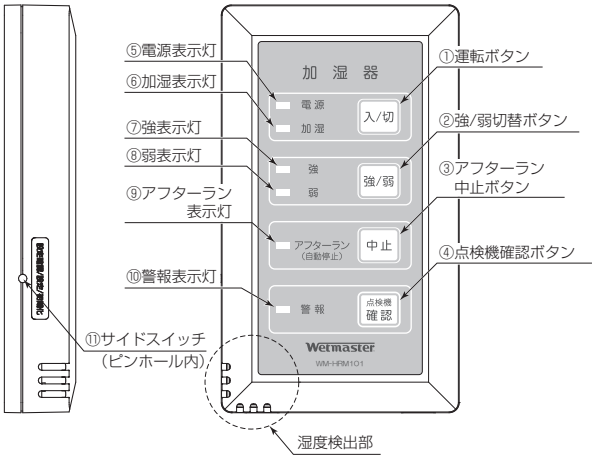
5-1 リモコンスイッチの各種名称と表示

図 -12 リモコンスイッチの名称と機能

標準リモコンスイッチ



ヒューミ付リモコンの場合



①運転ボタン
加湿器の運転を入 / 切します。

②強 / 弱切替ボタン
ファンの強運転と弱運転を切り替えます。

③アフターラン中止ボタン
アフターランを強制的に中止させます。やむを得ない場合以外は押さないでください。

④点検機確認ボタン
警報が発生した加湿器を確認します。警報表示灯点灯時に押すと、加湿器本体の警報発生器より微小電子音が 30 秒間鳴ります。途中で止めたい場合には点検機確認ボタンをもう一度押します。

⑪サイドスイッチ
ヒューミ付リモコンの設定変更する場合に用います。ピンホール内部にスイッチがありますので、ペン先などで押して設定してください。

●加湿器の運転に関する表示と動作は表 6 のとおりです。
●ブレーカ ON 時にはすべての表示灯が点滅します（約 5 秒間）。消灯後、リモコンスイッチ操作を行ってください。
●ヒューミ付リモコンのヒューミディスタット初期設定湿度は 40%RH です。

表 6 リモコンスイッチの表示

（点灯：○、消灯：－ を示します）

運転状態		A		B		C		D		E	F
		加湿運転		加湿運転（ヒューミ= ON）		アフターラン（ヒューミ= OFF）		待機状態（ヒューミ= OFF）		アフターラン	運転停止
ヒューミディスタット		無		有						有無共通	
ファン強弱		強	弱	強	弱	強	弱	強	弱	強弱共通	強弱共通
表示灯	⑤ 電源	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－
	⑥ 加湿	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－
	⑦ 強	○	－	○	－	○	－	○	－	－	－
	⑧ 弱	－	○	－	○	－	○	－	○	－	－
	⑨ アフターラン	－	－	－	－	○	○	－	－	○	－
	⑩ 警報	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

A： ヒューミディスタット無の場合は、加湿運転（A）のみとなります。

B： ヒューミディスタット有の場合でヒューミディスタット接点が ON であれば加湿運転（B）になります。

C： 加湿運転中（B）にヒューミディスタットが OFF になると、自動的にアフターラン（C）に入ります。ヒューミディスタットが ON になれば加湿運転（B）を再開します。

D： ヒューミディスタット OFF の状態が 1 時間以上続くと、自動的にアフターラン（C）を終えてヒューミディスタットからの加湿信号の待機状態（D）になります。また運転停止（F）の状態でヒューミディスタットが OFF の時に運転ボタンを押した場合も、そのまま待機状態（D）になります。運転停止（F）の状態から、ヒューミディスタットが ON の時に運転ボタンを押した場合は加湿運転（B）を再開します。

E： 加湿運転中（A B）またはアフターラン中（C）に「運転」ボタンを押すと、運転終了のためのアフターラン（E）に入ります。

F： 運転終了のためのアフターラン（E）が完了すると、自動的に運転停止（F）の状態に戻ります。また待機状態（D）で運転ボタンを押した場合も、そのまま運転停止（F）の状態に戻ります。

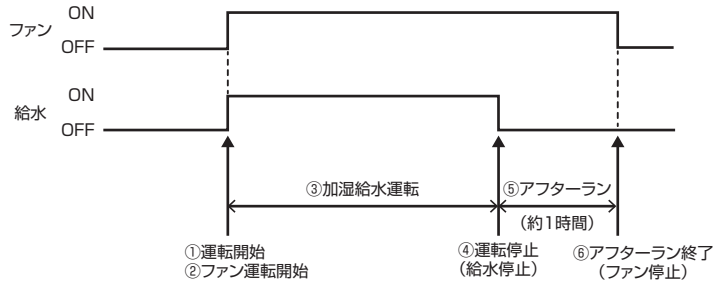
※リモコンスイッチの運転ボタン OFF 後、または外部指令信号入力による運転 OFF 後の再運転時のファン強弱について運転停止前の状態が「強」であれば「強」で運転し、運転停止前の状態が「弱」であれば「弱」で運転を開始します。

5-2 基本的な運転動作

●運転ボタン ON 時やヒューミディスタット ON 時など、加湿器の運転開始時とともにファンが運転し加湿を行います。

●運転ボタン OFF 時やヒューミディスタット OFF 時などの運転停止時には給水を停止した状態でファンのみ運転させ加湿モジュールを乾燥させた後、自動停止します（アフターラン機能による加湿モジュール乾燥、約 1 時間）。

図 -13 運転動作タイミングチャート



基本運転動作

①運転ボタンまたは外部指令信号入力、およびヒューミディスタット ON による運転開始

②ファン運転開始

③加湿給水運転

④運転ボタンまたは外部指令信号入力、ヒューミディスタット OFF による運転停止

⑤アフターラン開始（給水停止）

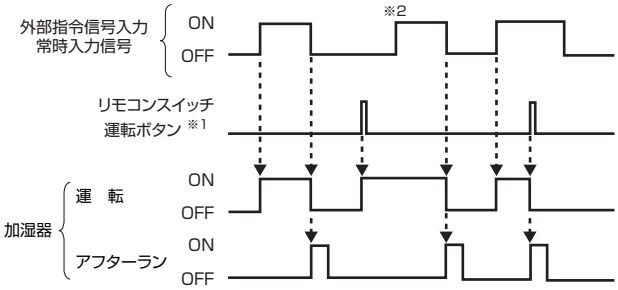
⑥アフターラン終了（ファン停止）

5-3 リモコンスイッチ、外部指令信号入力の後押し優先機能

●リモコンスイッチでの発停の他に外部指令信号入力による発停を併用する場合、後押し優先で動作します。

●外部指令信号入力の種類は常時入力と瞬時入力に対応しています。出荷時の初期設定は常時入力信号です。瞬時入力信号とする場合は、P.22「3-4 外部指令信号入力による遠方発停（外部指令制御）を使用する場合のディップスイッチ設定」を参照してディップスイッチの設定を変更してください。

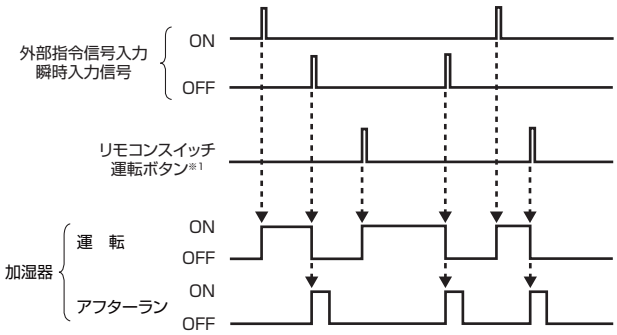
図 -14 常時入力信号動作タイミングチャート
（ヒューミディスタット ON 時）



※ 1：リモコンスイッチの運転ボタンは、停止中に押すと運転し、運転中に押すと停止します。

※ 2：後押し優先動作のため、外部指令信号入力で強制停止させる場合は接点 ON → OFF 入力が必要になります。また、強制運転させる場合は接点 OFF → ON 入力が必要になります。

図 -15 瞬時入力信号動作タイミングチャート
（ヒューミディスタット ON 時）

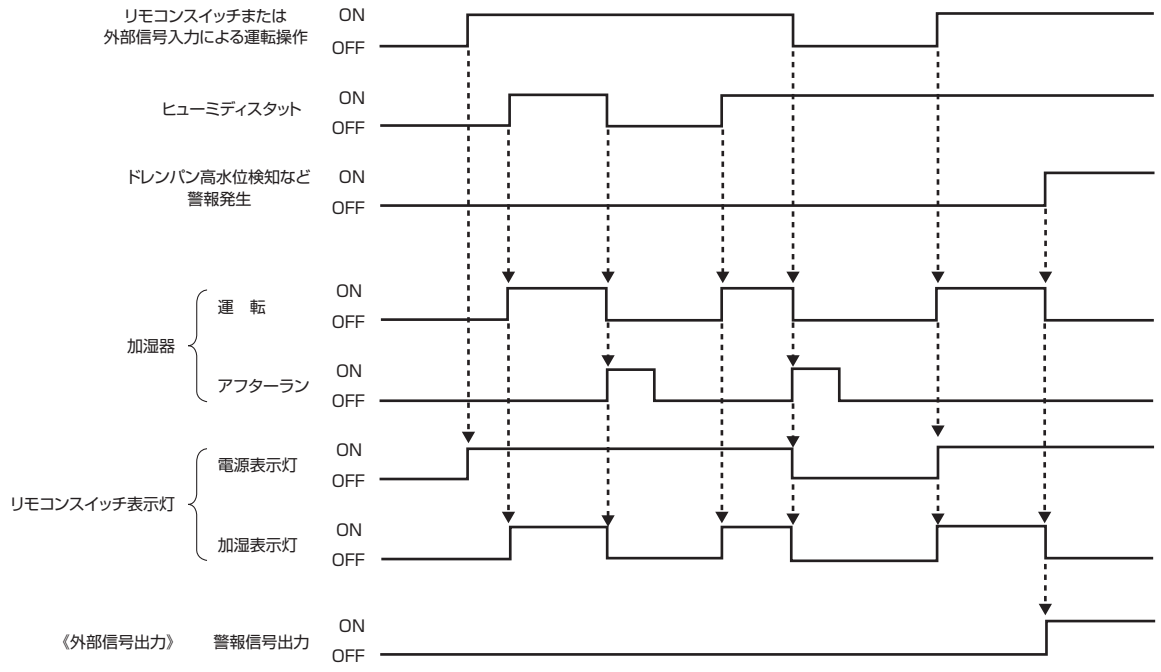


※ 1：リモコンスイッチの運転ボタンは、停止中に押すと運転し、運転中に押すと停止します。

5-4 運転動作と外部信号出力（警報信号）

●警報信号はドレンパン高水位検知の安全保護機能作動時に出力されます。警報発生時には警報が発生した加湿器の運転を停止し、リモコンスイッチの警報表示灯が点灯します。警報表示灯の点灯解除方法については P.39「5-5 警報発生時の運転停止動作およびリモコンスイッチの表示について」をご参照ください。

図 -16 運転信号出力タイミングチャート



5-5 警報発生時の運転停止動作およびリモコンスイッチの表示について

●本加湿器には表 8 の安全保護機能があります。安全保護機能作動時には P.42「7-5 故障のチェックと処置 / 一覧表」を参照して処置を行ってください。

表 8 安全保護機能一覧

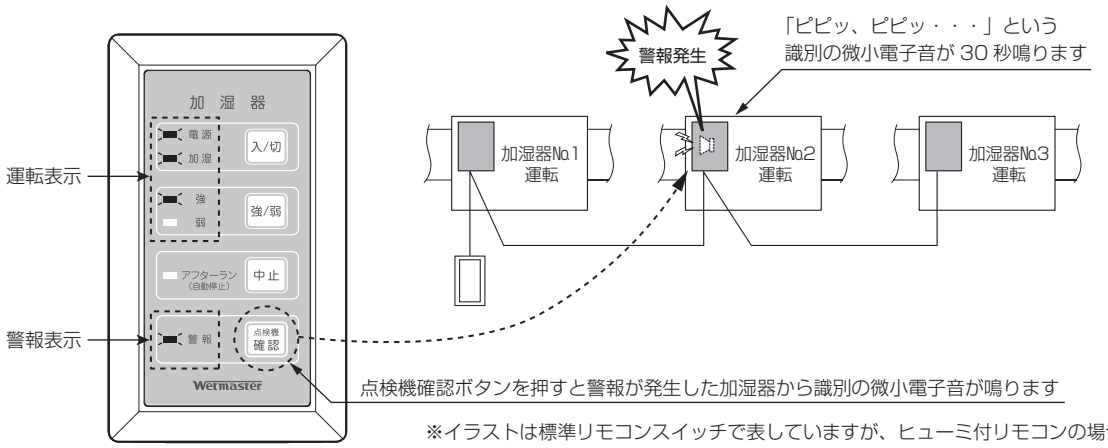
安全保護機能	安全保護機能作動時				警報表示灯の点灯解除方法
	運転動作	リモコンスイッチ表示	外部信号出力	コントロールユニット LED	
ドレンパン高水位検知	運転停止	「警報表示灯」点灯	警報信号出力	LED3（赤）点灯	加湿器元電源の漏電ブレーカを OFF にすると警報表示灯の点灯が解除されます。 警報の原因を解消した後に、電源を再投入してください。

※ LED3 の点灯解除の方法は、P.23 図 -10 を参照してください。

●1 つのリモコンスイッチで加湿器本体を複数台制御時には、安全保護機能が作動した加湿器のみ運転を停止します。この時、リモコンスイッチの表示は運転状態の表示と警報発生の表示の両方を表示します（図 -17）。

●警報発生時に点検機確認ボタンを押すと警報が発生したアフターラン制御ボックスより微小電子音が 30 秒間鳴ります。アフターラン制御ボックスからの電子音を確認することで警報が発生した加湿器が特定できます（微小電子音を途中で止めたい場合には点検機確認ボタンをもう一度押します）。

図 -17 警報発生時のリモコンスイッチの表示および操作



※イラストは標準リモコンスイッチで表していますが、ヒューミ付リモコンの場合も同様です。

6 運転管理

⚠ 警告	●本製品は、専門業者の管理のもとにご使用ください。誤った取扱をした場合には、水もれや感電等の事故の原因になります。

6-1 施工後はじめての運転に際して

●施工後にはじめて運転を開始する場合には、下記の手順で運転準備を行ってください。

①給水配管のフラッシングを行う（加湿器本体 VSC タイプまたは VSB タイプの取扱説明書参照）
②給水サービス弁を開ける
③ヒューミディスタットを希望湿度にセットする
④加湿器元電源の漏電ブレーカを ON にして電源を供給する

6-2 日常の運転管理

⚠ 注意	●加湿器の運転休止中に含水状態の加湿モジュールが長時間放置されることは望ましくありません。従って加湿器のアフターランは中止させないでください。やむを得ず中止した場合には、再度「運転」ボタンを押して入 / 切させ、アフターランを行ってください。

●リモコンスイッチによる加湿器の運転操作は P.36「5-1 リモコンスイッチの各種名称と表示」を参照してください。

●リモコンスイッチ上の強 / 弱切替ボタンにより、ファンの強 / 弱切替ができます。必要に応じて運転を切り替えてご使用ください。

●ヒューミ付リモコンまたは客先ご用意の室内に設置されたヒューミディスタットの加湿信号に伴って自動運転を行います。

●外部指令信号入力による遠方発停（外部指令制御）を行っている場合、運転または停止の外部指令信号入力に伴って自動運転を行います。

●運転停止の際には加湿モジュールを乾燥させるためのアフターラン機能が働きます。運転ボタンを押して切モードにした後、およびヒューミディスタットの信号が OFF になった後に、無給水で約 1 時間の送風を行って自動的に停止します。

● 24 時間連続運転となるような場合、衛生的な空調を行うために一日に一回、加湿器の運転を停止して、アフターランを行ってください。アフターラン機能により、定期的に加湿モジュールを乾燥させることで、臭気などの発生を予防します。

●アフターラン中止ボタンは、アフターラン中にやむを得ず送風を中止しなければならないとき以外は押さないでください。加湿モジュールの乾燥が不十分な場合、設置環境によっては運転開始後、臭気などが発生する原因になることがあります。

●ヒューミディスタットを設置しない場合、夜間や休日など“消し忘れ”にご注意ください。換気しない状態で長時間運転を続けた場合など、加湿負荷が少ない状態では多湿になり、窓の結露や壁クロスのはがれなどの原因になります。

●本体内で警報（ドレンパン高水位）が発生した場合には、安全保護機能が働いて警報の発生した本体のみを停止し、リモコンスイッチ上の警報表示灯が点灯します。P.41「7 故障の原因と処置」を参照し、対処してください。

6-3 長期休止の場合

6-3-1 長期休止にあたって

●加湿のシーズンオフなど加湿器の運転を長期休止する場合は、下記の作業を行ってください。

①アフターランが終了した後に、加湿器元電源の漏電ブレーカを OFF にする
②給水サービス弁を閉める

6-3-2 長期休止後の運転再開にあたって

●シーズンインなど運転再開時には、所定の保守点検作業が必要になります。加湿器本体（VSC タイプまたは VSB タイプ）の取扱説明書を参照して、確実に作業を行ってください。

7 故障の原因と処置

⚠ 警告	●部品交換を含め、修理は当社または専門業者にご相談ください。修理に不備があると、水もれや感電、火災等の原因になります。 ●改造は絶対にしないでください。改造すると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。

7-1 故障と思われる前に

●正常な動作を行わない場合でも、必ずしも故障が発生しているとは限りません。故障のチェックを行う前に、まず、下記の諸点をチェックしてください。

□アフターラン制御ボックスへの電源が供給されていること
□アドレス設定が行なわれていること（警報表示灯が点滅していないこと）
　※アドレス設定方法は、P.20「3-1 アドレス設定（リモコンスイッチ初期設定操作）、接続台数確認」参照
□リモコンスイッチの電源表示灯が点灯していること
□ヒューミディスタットが ON になっていること
□ヒューミディスタットがない場合はリモコンスイッチを接続しているアフターラン制御ボックスの端子 L1、L2 が短絡されていること
□ VSB タイプにドレン排水用ポンプを併用している場合は、ドレン排水用ポンプへの電源が供給されていること
□給水サービス弁が開いていること
□断水していないこと

●なおも復旧しない場合には、次頁の一覧表を参照してチェックおよび処置を行ってください。

7-2 故障のチェックと処置

● P.42「7-5 故障のチェックと処置 / 一覧表」を参照して、故障のチェックと処置を行ってください。

●表内で ■ 印の原因に該当する場合には、当社宛お問い合わせください（サービスコール）。

●リモコンスイッチの警報表示灯が点灯した場合、１つのリモコンスイッチで複数台制御を行っている場合には P.39「5-5 警報発生時の運転停止動作およびリモコンスイッチ表示について」を参照して警報が発生した加湿器を特定し、処置を行ってください。

7-3 故障時の作業が終わったら

●故障のチェックとその処置が終わったら必ず運転確認を行い、正常な動作および配管各部からの水もれのないことを確認してください。

●不都合な点があれば必ず修正し、なおも正常な動作を行わない場合は当社宛お問い合わせください。

7-4 保証期間

●当製品の保証期間は、銘板表示の製造年度の翌年末までです。取扱説明書および本体貼付ラベル等の要領に従った、正常な使用状態で故障した場合には無料修理いたします。

●保証期間内においても、使用条件外でのご使用による故障、選定および取付の不良による故障、改造による故障、特殊用途でのご使用による故障などにつきましては、有料修理となります。
また、加湿器本体の取扱説明書に交換周期の明示されている部品の交換、作業時期の明示されている保守点検作業につきましては、保証期間内においても有料となる場合があります。

7-5 故障のチェックと処置 / 一覧表

●表内で 印の原因に該当する故障と判断される場合には当社宛ご連絡ください。

リモコン表示	故障原因	処　置
①加湿器が運転しない		
全消灯	加湿器元電源の漏電ブレーカが OFF または停電している	電源を供給する
	正しい電源（AC100V）が供給されていない	確認し修正する
	リモコンが切モード（運転ボタンを押していない）	運転スイッチを押す
	基板上のヒューズが切れている	サービスコール
	基板電源スイッチ（SW1）が OFF になっている	基板スイッチ（SW1）を ON にする
警報表示灯点滅	アドレス設定されていない	アドレス設定する（P.20 参照）
電源表示灯のみ点灯	ドレン排水用ポンプを使用している状態で、ドレン排水用ポンプに電源が供給されていない	電源を供給する
②運転しているが加湿不足になる		
正　常	弱運転になっている	強運転に切り替える
	給水サービス弁が閉まっている	給水サービス弁を開ける
	給水ストレーナの目詰まり	給水ストレーナを掃除する
	給水圧力が低い	確認し修正する
	断水している	確認する
	ファンの故障	修理または交換する
	ヒューミディスタットの設定が低い	設定目盛りを確認する
	ヒューミディスタット故障（接点が ON にならない）	修理または交換する
	フィルタの目詰まりによる風量低下	フィルタを掃除する
	加湿モジュールが汚れて吸水性が低下し加湿能力が落ちている	加湿モジュールを洗浄または交換
	上記以外の場合	サービスコール
③本体内ドレンパン高水位		
警報表示灯点灯※	本体が水平でない	確認し修正する
	排水配管の先下がり勾配が不十分	確認し修正する
	ドレンパン排水口または排水配管の目詰まり	確認し修正する
	排水配管に極端な曲がりや空気だまりがある	確認し修正する
	加湿モジュールが汚れて吸水性が低下し水滴飛散している	加湿モジュールを洗浄または交換
	上記以外の場合	サービスコール
※警報表示灯が点灯して運転が停止している場合、警報の原因を解消した上で加湿器元電源の漏電ブレーカを OFF → ON にすると、警報表示灯の点灯を解除することができます。		
④異常音		
正　常	給水圧力が高すぎる	確認し修正する
	減圧弁の振動音	配管のエア抜きをする
	排水配管に空気だまりができている	確認し修正する
	上記以外の場合	サービスコール
⑤異　臭		
正　常	水質が悪い	確認し修正する 加湿モジュール洗浄または交換
	本体が水平でなくドレンパンに水が滞留している	確認し修正する 加湿モジュール洗浄または交換
	排水配管からの異臭	排水トラップ等の検討
	経時的な加湿モジュールの汚れ	加湿モジュール洗浄または交換
	上記以外の場合	サービスコール

8 仕様

8-1 VSC 用アフターラン制御ボックス

<table>
<tr><td colspan="2">品名</td><td colspan="4">滴下浸透気化式加湿器 VSC 用 アフターラン制御ボックス</td></tr>
<tr><td colspan="2">型番</td><td colspan="4">WM-AFB-VS</td></tr>
<tr><td colspan="2">適合加湿器※1</td><td>WM-VSCØ6L</td><td>WM-VSCØ6H</td><td>WM-VSC12L</td><td>WM-VSC12H</td></tr>
<tr><td colspan="2">加湿能力※2</td><td>1.4kg/h(風量 600m³/h 時)</td><td>2.0kg/h(風量 600m³/h 時)</td><td>2.7kg/h(風量 1200m³/h 時)</td><td>4.0kg/h(風量 1200m³/h 時)</td></tr>
<tr><td colspan="2">定格電源</td><td colspan="4">単相 AC100V 50/60Hz</td></tr>
<tr><td colspan="2">定格消費電力</td><td colspan="4">55W（加湿器本体の消費電力を含む） ※客先ご用意のダクト用ファンを除く</td></tr>
<tr><td colspan="2">質量</td><td colspan="4">約 2.9kg</td></tr>
<tr><td rowspan="3">電気特性</td><td>電圧許容範囲</td><td colspan="4">± 10% 以内</td></tr>
<tr><td>絶縁抵抗</td><td colspan="4">100M Ω以上</td></tr>
<tr><td>絶縁耐圧</td><td colspan="4">AC1000V 1 分間印加異常なし</td></tr>
<tr><td>使用条件</td><td>周囲温湿度</td><td colspan="4">5 ～ 40℃、80%RH 以下</td></tr>
<tr><td colspan="2">運転 / 停止</td><td colspan="4">ヒューミディスタットをご使用の場合は加湿信号により自動発停します。
任意の発停は「リモコンスイッチ操作による発停」と「外部指令信号入力による遠方発停（外部指令制御の場合）により行われ「後押し優先」となります。
※外部指令信号入力は「常時入力信号」と「瞬時入力信号」に対応しています。信号の種類に応じてアフターラン制御ボックスコントロールユニットのディップスイッチ切替が必要です。</td></tr>
<tr><td colspan="2">外部信号出力</td><td colspan="4">警報信号出力：無電圧接点出力（a接点、125V 3A 抵抗負荷） 自己保持
※加湿運転信号は加湿器本体より出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">能力切替</td><td colspan="4">リモコンスイッチにより強弱 2 段切替可能</td></tr>
<tr><td colspan="2">アドレス設定</td><td colspan="4">制御ボックスとリモコンスイッチの接続時にアドレス設定が必要となります。
※リモコンスイッチのオートアドレス機能により、当該リモコンに接続されている本体接続台数を認識、設定します（リモコンスイッチの操作と表示灯の点滅回数で接続台数が確認できます）。</td></tr>
<tr><td colspan="2">保健衛生対策</td><td colspan="4">アフターラン機能（加湿モジュール乾燥のための送風運転、客先ご用意のダクト用ファンの発停を行い約1時間で自動停止）
※加湿器運転停止時に、衛生的な空調を行うために加湿モジュールの乾燥を行います。
※アフターラン中はリモコンスイッチのアフターラン表示灯が点灯します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">梱包内容</td><td colspan="4">①アフターラン制御ボックス …… 1台
②接続コード（制御ボックス～加湿器本体接続用、1m） …… 3 本
③取扱説明書類…… 一式
④アフターラン制御ボックス用リモコンスイッチ（初期設定操作説明書同梱）…… 1台
※梱包されている接続コード 3 本のうち、実際に使用するのは 2 本です。詳細は P.10 図 -7 をご参照ください。
※アフターラン制御ボックスとアフターラン制御ボックス用リモコンスイッチは別梱包です。</td></tr>
<tr><td colspan="2">客先ご用意</td><td colspan="4">1）ダクト用ファン（AC100V、ファン用制御リレー接点容量：7.5A（誘導負荷）、強弱切替端子付）
参考型番、能力（下記、静圧表記は 50/60Hz）
<table>
<tr><th></th><th>WM-VSCØ6L/H 用</th><th>WM-VSC12L/H 用</th></tr>
<tr><td>ダイキン工業㈱製</td><td>VFDS700B
（強 500m³/h 時 静圧 118/168Pa）</td><td>VFDS1300B
（強 1000m³/h 時 静圧 174/258Pa）</td></tr>
<tr><td>三菱電機㈱製</td><td>BFS-65SUC
（強 600m³/h 時 静圧 138/180Pa）</td><td>BFS-120SUC
（強 1200m³/h 時 静圧 200/265Pa）</td></tr>
</table>
2）ヒューミディスタット（二位置式、接点容量 2A 以上）
3）各制御ボックスごとに漏電ブレーカをご用意ください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">その他</td><td colspan="4">1）リモコンスイッチがないと運転できません。付属のリモコンスイッチは必ずご使用ください。また、リモコンスイッチ 1 ケで加湿器本体 10 台まで同時制御を行うことができます。
2）気流入口側やファン吸込側にはプレフィルタ等を設置してください。
3）複数台の加湿器をリモコンスイッチ 1 ケで同時制御させる場合には、加湿器台数分のアフターラン制御ボックスが必要になります。あわせて漏電ブレーカも各制御ボックス毎にご用意ください。詳細は結線要領図を参照してください。
4）アフターラン制御ボックスは、天井面の加湿器本体用点検口の近傍に取り付けるか、専用の点検口を設けてください。制御ボックスと加湿器本体との接続コード（付属）は 1 mです。</td></tr>
</table>

※ 1：WM-VSC24L/H、WM-VSC36L/H には対応しません。WM-VIB タイプをご検討ください。
※ 2：加湿器入口空気温湿度 23℃ DB・40% RH における値を示します。

8-2 VSB 用アフターラン制御ボックス

品名		滴下浸透気化式加湿器　VSB 用　アフターラン制御ボックス			
型番		WM-AFB-VS			
適合加湿器※1		WM-VSB600L	WM-VSB600H	WM-VSB1200L	WM-VSB1200H
加湿能力※2		1.4kg/h(風量 600m³/h 時)	2.0kg/h(風量 600m³/h 時)	2.7kg/h(風量 1200m³/h 時)	4.0kg/h(風量 1200m³/h 時)
定格電源		単相　AC100V　50/60Hz			
定格消費電力		17W（加湿器本体の消費電力を含む）　※客先ご用意のダクト用ファンを除く			
質量		約 2.9kg			
電気特性	電圧許容範囲	± 10% 以内			
	絶縁抵抗	100M Ω以上			
	絶縁耐圧	AC1000V　1 分間印加異常なし			
使用条件	周囲温湿度	5 ～ 40℃、80%RH 以下			
運転 / 停止		ヒューミディスタットをご使用の場合は加湿信号により自動発停します。 任意の発停は「リモコンスイッチ操作による発停」と「外部指令信号入力による遠方発停（外部指令制御の場合）により行われ「後押し優先」となります。 ※外部指令信号入力は「常時入力信号」と「瞬時入力信号」に対応しています。信号の種類に応じてアフターラン制御ボックスコントロールユニットのディップスイッチ切替が必要です。			
外部信号出力		警報信号出力：無電圧接点出力（a接点、125V　3A 抵抗負荷）　自己保持 ※加湿運転信号は加湿器本体より出力されます。（無電圧接点出力 a 接点、125V　3A 抵抗負荷）			
能力切替		リモコンスイッチ強・弱　二段切替（二位置式ヒューミディスタット取付可）			
アドレス設定		制御ボックスとリモコンスイッチの接続時にアドレス設定が必要となります。 ※リモコンスイッチのオートアドレス機能により、当該リモコンに接続されている本体接続台数を認識、設定します。（リモコンスイッチの操作と表示灯の点滅回数で接続台数が確認できます）			
保健衛生対策		アフターラン機能（加湿モジュール乾燥のための送風運転、客先ご用意のダクト用ファンの発停を行い約1時間で自動停止） ※加湿器運転停止時に、衛生的な空調を行うために加湿モジュールの乾燥を行います。 ※アフターラン中はリモコンスイッチのアフターラン表示灯が点灯します。			
梱包内容		①アフターラン制御ボックス …… 1台 ②接続コード（制御ボックス～加湿器本体接続用、1m）…… 3 本 ③取扱説明書類…… 一式 ④アフターラン制御ボックス用リモコンスイッチ（初期設定操作説明書同梱）…… 1台 ※梱包されている接続コード 3 本のうち、実際に使用するのは 2 本です。詳細は P.10 図 -7 をご参照ください。 ※アフターラン制御ボックスとアフターラン制御ボックス用リモコンスイッチは別梱包です。			
客先ご用意		1）ダクト用ファン（AC100V、ファン用制御リレー接点容量：7.5A（誘導負荷）、強弱切替端子付） 参考型番、能力（下記、静圧表記は 50/60Hz）			

	WM-VSB600L/H 用	WM-VSB1200L/H 用
ダイキン工業㈱製	VFDS700B （強 500m³/h 時 静圧 118/168Pa）	VFDS1300B （強 1000m³/h 時 静圧 174/258Pa）
三菱電機㈱製	BFS-65SUC （強 600m³/h 時 静圧 138/180Pa）	BFS-120SUC （強 1200m³/h 時 静圧 200/265Pa）

客先ご用意	2）ヒューミディスタット（二位置式、接点容量容量 2A 以上） 3）各制御ボックスごとに漏電ブレーカをご用意ください。
その他	1）リモコンスイッチがないと運転できません。付属のリモコンスイッチは必ずご使用ください。また、リモコンスイッチ 1 ケで加湿器本体 10 台まで同時制御を行うことができます。 2）気流入口側やファン吸込側にはプレフィルタ等を設置してください。 3）複数台の加湿器をリモコンスイッチ 1 ケで同時制御させる場合には、加湿器複数台分のアフターラン制御ボックスが必要になります。あわせて漏電ブレーカも各制御ボックス毎にご用意ください。詳細は結線要領図を参照してください。 4）アフターラン制御ボックスは、天井面の加湿器本体用点検口の近傍に取り付けるか、専用の点検口を設けてください。制御ボックスと加湿器本体との接続コード（付属）は 1 m です。

※ 1：WM-VSB2400L/H、WM-VSB3200L/H には対応しません。WM-VIB タイプをご検討ください。
※ 2：加湿器入口空気温湿度 23℃ DB・40% RH における値を示します。

8-3 ヒューミ付リモコン

機種・型式	ヒューミ付リモコン
型番	WM-HRM101
本体周囲温湿度	5 ～ 40℃（凍結しないこと）　30 ～ 90%RH以下（結露しないこと） ※当リモコンスイッチは室内専用です。室内に設置する場合においても、湯気、水しぶき、油などのかからない場所へ設置してください。
湿度設定範囲	35 ～ 70% RH ※出荷時のヒューミディスタット設定湿度は 40% RH です。設定湿度はリモコンスイッチ操作により 5%単位で変更が可能です。設定変更操作については、加湿器本体付属の施工要領書または取扱説明書をご参照ください。
湿度設定ヒステリシス	− 5% RH
リモコンケース色	ホワイト（近似色 マンセル 5Y9/0.5）
アドレス設定	加湿器本体とリモコンスイッチの接続時にアドレス設定が必要となります。 ※リモコンスイッチのオートアドレス機能により当該リモコンに接続されている本体接続台数を認識、設定します。リモコンスイッチ操作と表示灯の点滅回数で接続台数が確認できます)。
梱包内容	①ヒューミ付リモコン …… 1ヶ ②初期設定操作説明書…… 1部 ※アフターラン制御ボックスとは別梱包になります

ウエットマスター株式会社

本社営業本部　〒161-8531　東京都新宿区中落合 3-15-15 WM本社ビル　TEL.03-3954-1101

●加湿器のメンテナンス、リニューアルに関するお問い合わせは、最寄りの各拠点へご連絡ください。

保守・サービス営業本部	〒161-8531 東京都新宿区中落合 3-15-15 カスタマーセンター	TEL.03-3954-1110
大 阪 支 店	〒540-0024 大阪市中央区南新町1-1-2 タイムスビル	TEL.06-4790-6606
名古屋支店	〒464-0858 名古屋市千種区千種 1-15-1 ルミナスセンタービル	TEL.052-745-3277
仙台営業所	〒981-3135 仙台市泉区八乙女中央 5-17-12	TEL.022-772-8121
福岡営業所	〒812-0004 福岡市博多区榎田 2-1-10	TEL.092-471-0371

●業務用・産業用各種加湿器

●流量管理システム機器／エアロQシステム・カラムアイ

http://www.wetmaster.co.jp

5710-011405